

船場地区学校建設検討調査
[第2次中間報告]

平成29年7月

船場地区学校建設検討調査業務委託 受託者
株式会社 地域計画建築研究所

(印刷用余白)

－目次－

1. 基礎調査	1
(1) 小学校の現況	1
①各小学校の開校時期	1
②校区の範囲・面積	2
③居住誘導区域と既存小学校の位置関係	6
④最長通学距離と通学時間	7
(2) 各小学校区の人口構成・施設等の現況	8
(3) 今後の児童数の見通し	24
①児童数の推移	24
②校区調整における前提	24
2. 校区の適正規模	25
(1) 基本的な考え方	25
(2) 各校区の人口変動に左右されにくい安定的な指標の 設定について	26
①通学条件の観点からの指標	26
②教育環境の観点からの指標	26
[参考] 校区面積の補正の必要性について	29
1. 人口密度に基づく全市的な補正について	29
(1) 補正するエリアの単位	29
(2) 補正の考え方	30
(3) 補正結果	32
2. 特殊な地域性を考慮した補正について	33
(1) 特殊な地域性をもつエリアの抽出	34
(2) 該当エリアの人口密度と補正係数	34
(3) 補正結果	35
3. 結論	36

(印刷用余白)

1. 基礎調査

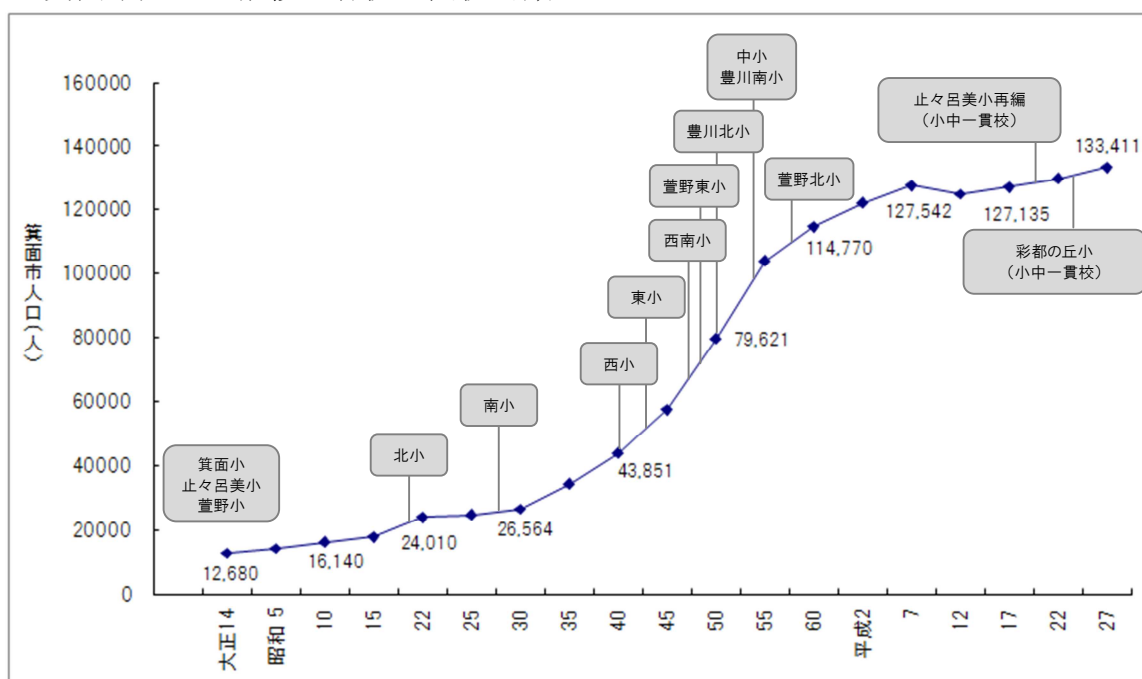
(1) 小学校の現況

① 各小学校の開校時期

箕面市の各小学校の開校は、下表のとおりである。

小学校	開校年	備考
箕面小学校	1874(明治 7)年	
萱野小学校	1879(明治 12)年	
北小学校	1945(昭和 20)年	
南小学校	1953(昭和 28)年	
西小学校	1965(昭和 40)年	
東小学校	1968(昭和 43)年	
西南小学校	1972(昭和 47)年	
萱野東小学校	1973(昭和 48)年	
豊川北小学校	1975(昭和 50)年	
中小学校	1979(昭和 54)年	
豊川南小学校	1979(昭和 54)年	
萱野北小学校	1983(昭和 58)年	
止々呂美小学校	1875(明治 8)年	2008(平成 20)年に小中一貫校として再編
彩都の丘小学校	2011(平成 23)年	小中一貫校として開校

■ 箕面市人口の推移と各校の開校時期



②校区の範囲・面積

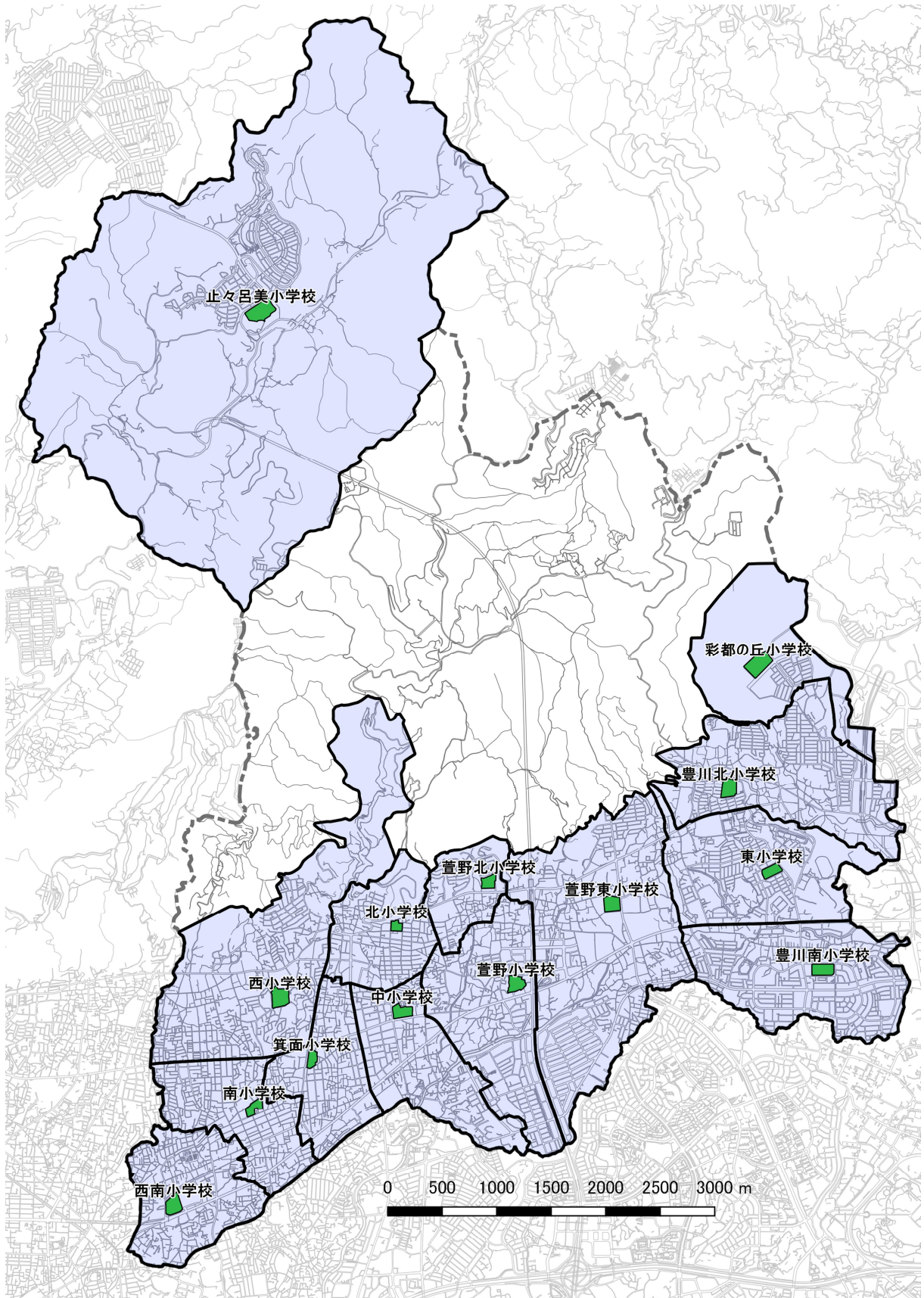
箕面市の総校区面積は 3,259ha、うち居住誘導区域[※]内の校区面積は約 1,619ha である。下表は各小学校の校区面積を GIS により計測したものである。

※居住誘導区域：箕面市立地適正化計画（平成28年2月策定）において設定している「居住を誘導すべき区域」で、箕面市では、市街化調整区域や緑地、災害ハザードエリア（土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）等）、地区計画等により住宅が建築される予定がないエリアなどが除かれた区域である。本検討においては、「校区にどれだけの人が住むか（住めるか）」という観点で分析を進めることから、居住を誘導しない区域を含む校区面積そのものではなく、居住誘導区域内面積を使用する。

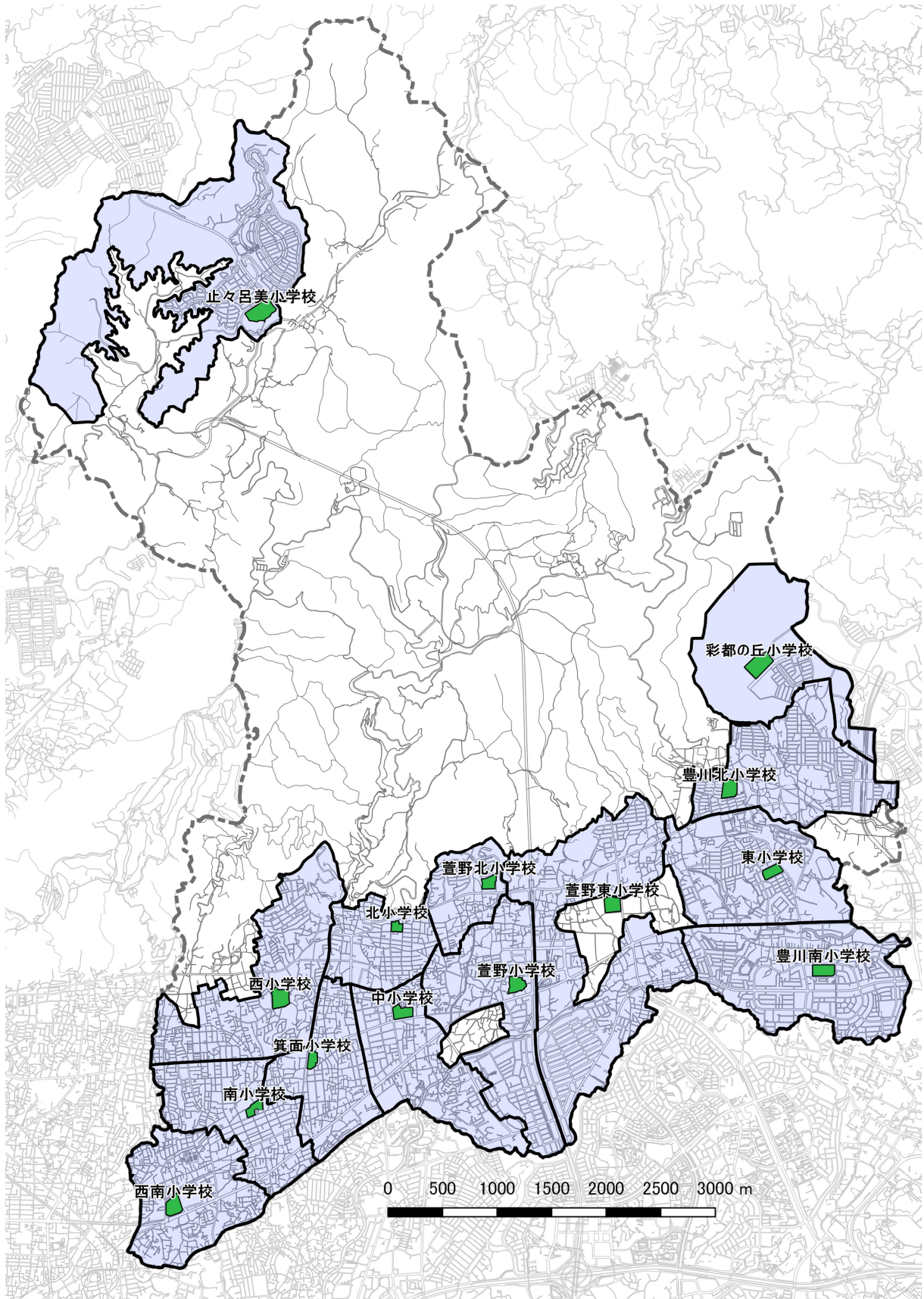
小学校	校区面積 ^{※1} (ha)		
	総面積	市街化区域内面積	居住誘導区域内面積
箕面小学校	92.2	92.2	92.2
萱野小学校	158.0	142.1	131.9
北小学校	90.5	67.1	62.4
南小学校	103.3	103.3	103.3
西小学校	302.7	157.5	107.8
東小学校	161.9	142.7	142.7
西南小学校	113.9	113.9	113.9
萱野東小学校	299.3	245.7	219.2
豊川北小学校	190.9	136.5	126.6
中小学校	118.0	114.8	114.8
豊川南小学校	167.5	167.5	167.5
萱野北小学校	53.6	51.9	32.6
止々呂美小学校	1,267.1	315.5	110.0
彩都の丘小学校	140.1	140.1	93.6
合計	3,259.0	1,990.8	1,618.5

※1 いずれも GIS による計測

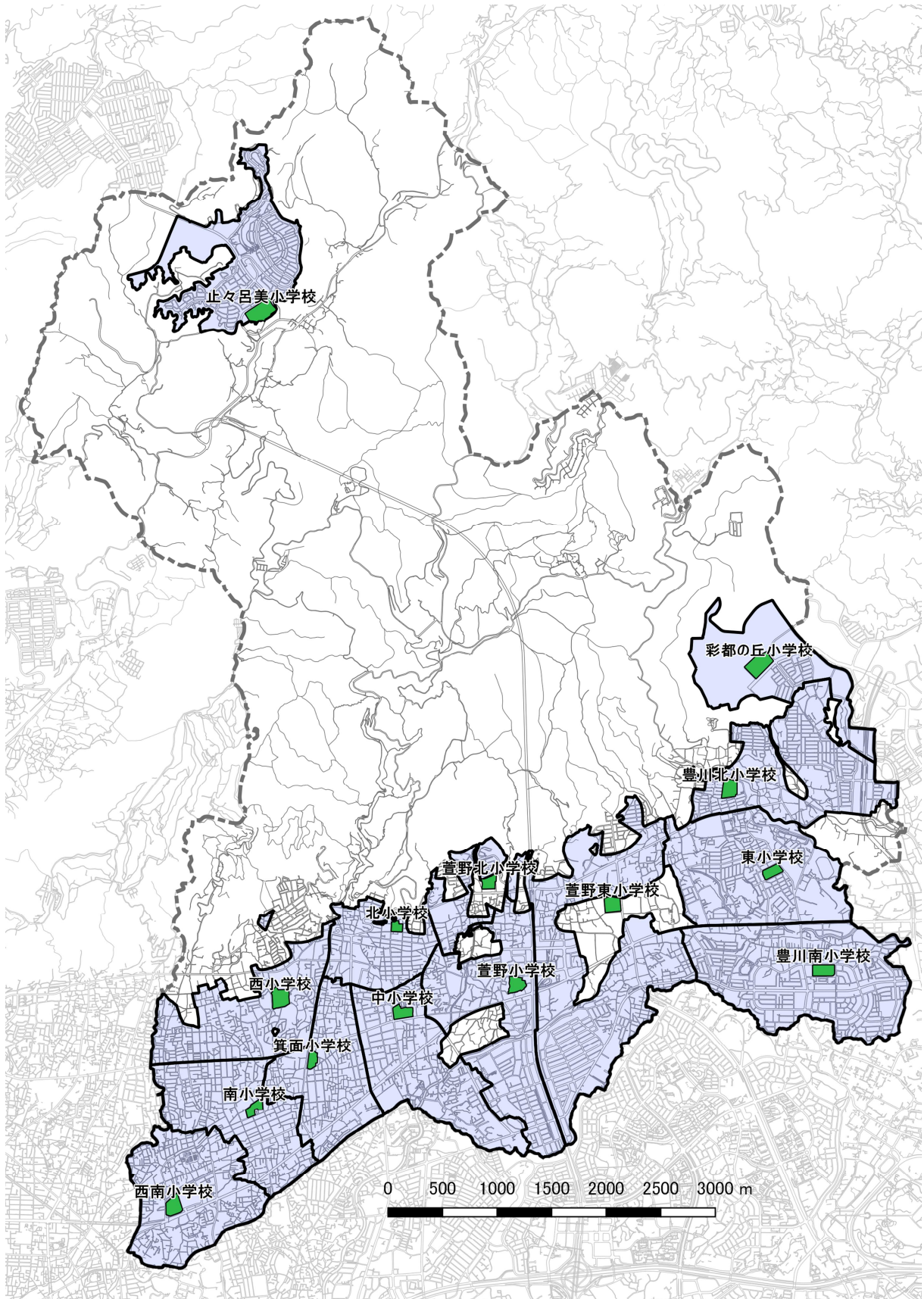
■校区図（全域）



■校区図（市街化区域内）



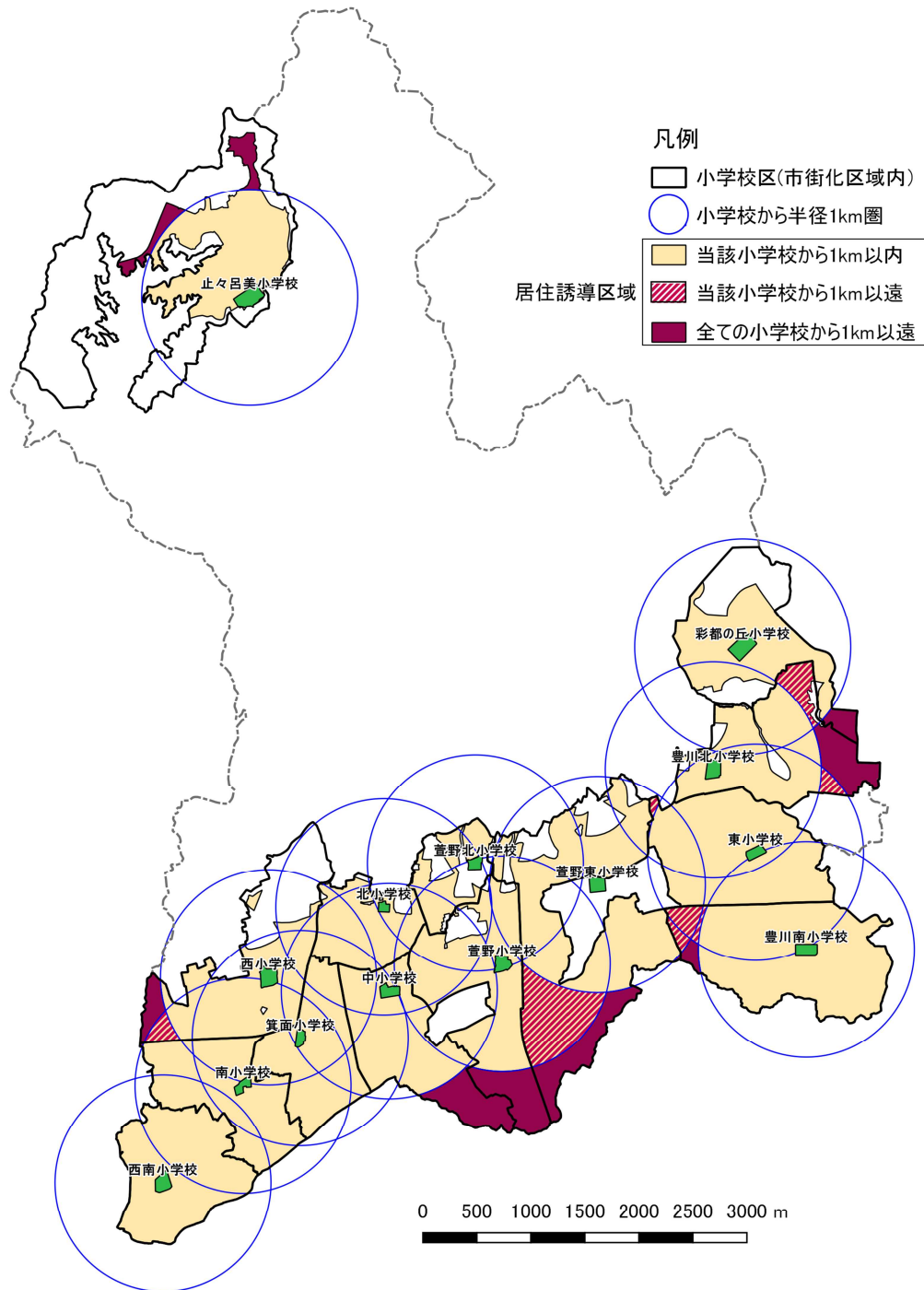
■校区図（居住誘導区域内）



③居住誘導区域と既存小学校の位置関係

箕面市では、「小学1年生でも容易に歩ける距離」を「1km」とし、概ね半径1km圏内に含まれるよう校区を設定している。

居住誘導区域と既存小学校の位置関係を検証すると、下図のとおり、小学校から半径1km圏内に含まれないエリアが、船場地区に最も広く存在している。



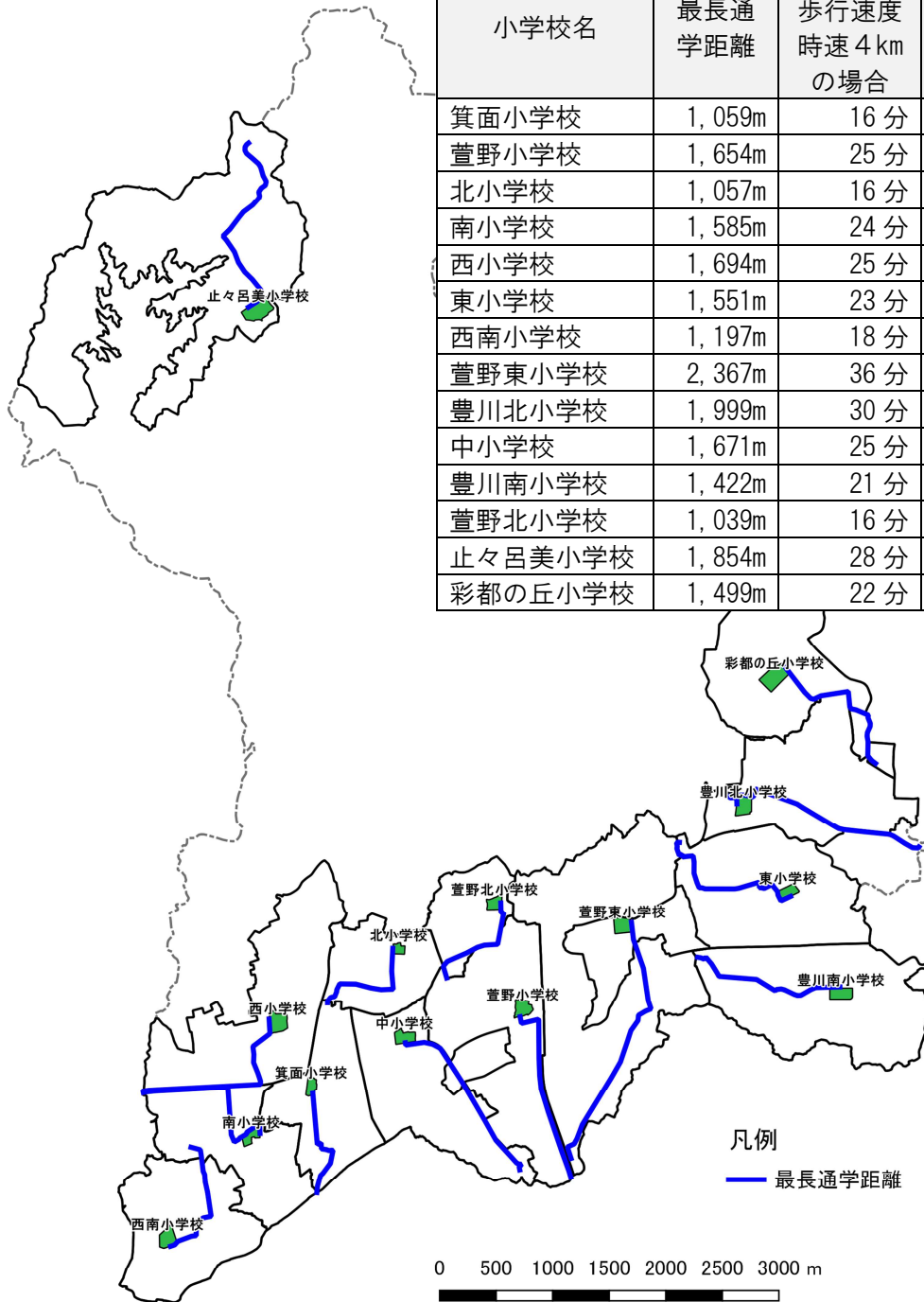
④最長通学距離と通学時間

小学校から校区内の最遠地点（住宅）への道路距離※を「最長通学距離」として図上計測すると、下図に示すように、1,039m～2,367mとなっている。

※主要な道路を通った場合の経路であり、実際の通学路とは異なる。

最長通学距離を徒歩で通学するために要する時間（最長通学時間）は、児童の年齢等によって異なるが、歩行速度を時速4km及び3kmと設定し計算すると、下表のようになる。

小学校名	最長通学距離	最長通学時間	
		歩行速度 時速4km の場合	歩行速度 時速3km の場合
箕面小学校	1,059m	16分	21分
萱野小学校	1,654m	25分	33分
北小学校	1,057m	16分	21分
南小学校	1,585m	24分	32分
西小学校	1,694m	25分	34分
東小学校	1,551m	23分	31分
西南小学校	1,197m	18分	24分
萱野東小学校	2,367m	36分	47分
豊川北小学校	1,999m	30分	40分
中小学校	1,671m	25分	33分
豊川南小学校	1,422m	21分	28分
萱野北小学校	1,039m	16分	21分
止々呂美小学校	1,854m	28分	37分
彩都の丘小学校	1,499m	22分	30分



(2)各小学校区の人口構成・施設等の現況

■各小学校区の人口構成等

小学校	人口等							校区面積※3 (ha)	人口密度 (人/ha)
	人口※1 (人)	子ども数※2 (人)	年少人口 (0-14歳) (人)	高齢人口 (65歳以上) (人)	子ども比率 (%)	年少人口 比率 (%)	高齢人口 比率 (%)		
箕面小学校	10,202	557	1,332	2,758	5.5	13.1	27.0	92.2	111
萱野小学校	10,970	673	1,616	2,603	6.1	14.7	23.7	131.9	83
北小学校	6,064	288	699	1,911	4.7	11.5	31.5	62.4	97
南小学校	9,881	570	1,296	2,896	5.8	13.1	29.3	103.3	96
西小学校	13,517	856	1,942	3,853	6.3	14.4	28.5	107.8	125
東小学校	10,885	520	1,233	3,354	4.8	11.3	30.8	142.7	76
西南小学校	12,811	710	1,732	3,386	5.5	13.5	26.4	113.9	112
萱野東小学校	12,987	784	1,868	3,015	6.0	14.4	23.2	219.2	59
豊川北小学校	9,452	486	1,193	2,654	5.1	12.6	28.1	126.6	75
中小学校	10,911	767	1,726	2,658	7.0	15.8	24.4	114.8	95
豊川南小学校	13,891	928	2,248	2,228	6.7	16.2	16.0	167.5	83
萱野北小学校	5,571	275	638	1,605	4.9	11.5	28.8	32.6	171
止々呂美小学校	3,427	472	1,173	291	13.8	34.2	8.5	110.0	31
彩都の丘小学校	4,723	781	1,891	131	16.5	40.0	2.8	93.6	50
合計	135,292	8,667	20,587	33,343	6.4	15.2	24.6	1,618.50	84

※1 H29.4.1 現在人口（校区未設定の7人を除く）

※2 6歳以上12歳未満人口

※3 居住誘導区域内における面積をGISにより計測

■各小学校の施設

平成 29 年(2017 年)5 月 1 日現在

小学校名	在学 児童数 (人)	学級数		教室数												教室 数計	校舎 面積 (延床面積) (㎡)	屋 内 運 動 場 面 積 (㎡)	運 動 場 面 積 (㎡)	敷 地 面 積 (㎡)	プ ール	
		普 通 学 級	支 援 学 級	普 通 教 室	支 援 教 室	特 別 教 室															水 面 積 (㎡)	付 属 室 (㎡)
						理 科	生 活	音 楽	図 工	家 庭 科	視 聴 覚	コ ン ピ ユ ー タ	図 書 館	特 別 活 動	教 育 相 談							
箕面小学校	535	16	7	16	7	2	0	2	1	2	0	1	1	1	1	34	8,070	774	7,442	12,571	300	99
止々呂美小学校	480	15	6	15	6	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	29	5,420	649	4,244	12,411	415	0
萱野小学校	648	18	8	18	8	2	0	1	1	1	1	0	1	0	1	34	8,484	797	7,152	14,484	300	80
北小学校	263	10	4	10	4	2	0	2	1	1	1	1	1	0	0	23	5,314	735	3,440	8,485	300	106
南小学校	528	16	5	16	5	2	0	1	2	1	0	1	1	2	1	32	6,979	726	5,099	15,052	311	77
西小学校	828	25	7	25	7	2	0	2	2	1	0	1	1	1	1	43	7,997	702	8,138	23,153	312	95
東小学校	512	16	5	16	5	1	1	2	1	1	0	1	1	0	1	30	6,865	694	7,800	19,835	300	84
西南小学校	701	21	7	21	7	2	0	2	1	1	1	1	1	0	0	37	7,378	832	9,368	19,951	312	86
萱野東小学校	764	23	7	23	7	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	37	6,754	712	8,639	19,694	300	91
豊川北小学校	477	15	8	15	8	2	0	2	2	1	0	1	1	1	1	34	7,321	726	10,641	20,000	300	88
中小学校	757	23	9	23	9	1	0	2	1	1	0	1	1	1	1	41	8,274	726	7,515	18,044	300	99
豊川南小学校	885	26	9	26	9	2	0	2	1	1	0	1	2	2	1	47	8,282	726	7,954	20,000	312	100
萱野北小学校	270	12	5	12	5	2	0	2	2	1	0	1	1	1	2	29	6,377	721	5,116	13,589	300	131
彩都の丘小学校	794	23	7	23	7	1	0	1	1	2	0	1	1	1	2	40	7,380	934	5,066	13,720	491	0
合計	8,442	259	94	259	94	23	1	23	18	16	3	13	15	11	14	490	100,895	10,454	97,614	230,989	4,553	1,136

※学童保育、デイサービス使用面積は含まない。

※平成 28 年度施設台帳より抜粋。ただし、教室数・敷地面積には未買収のため箕面市が保有していないものも含む。

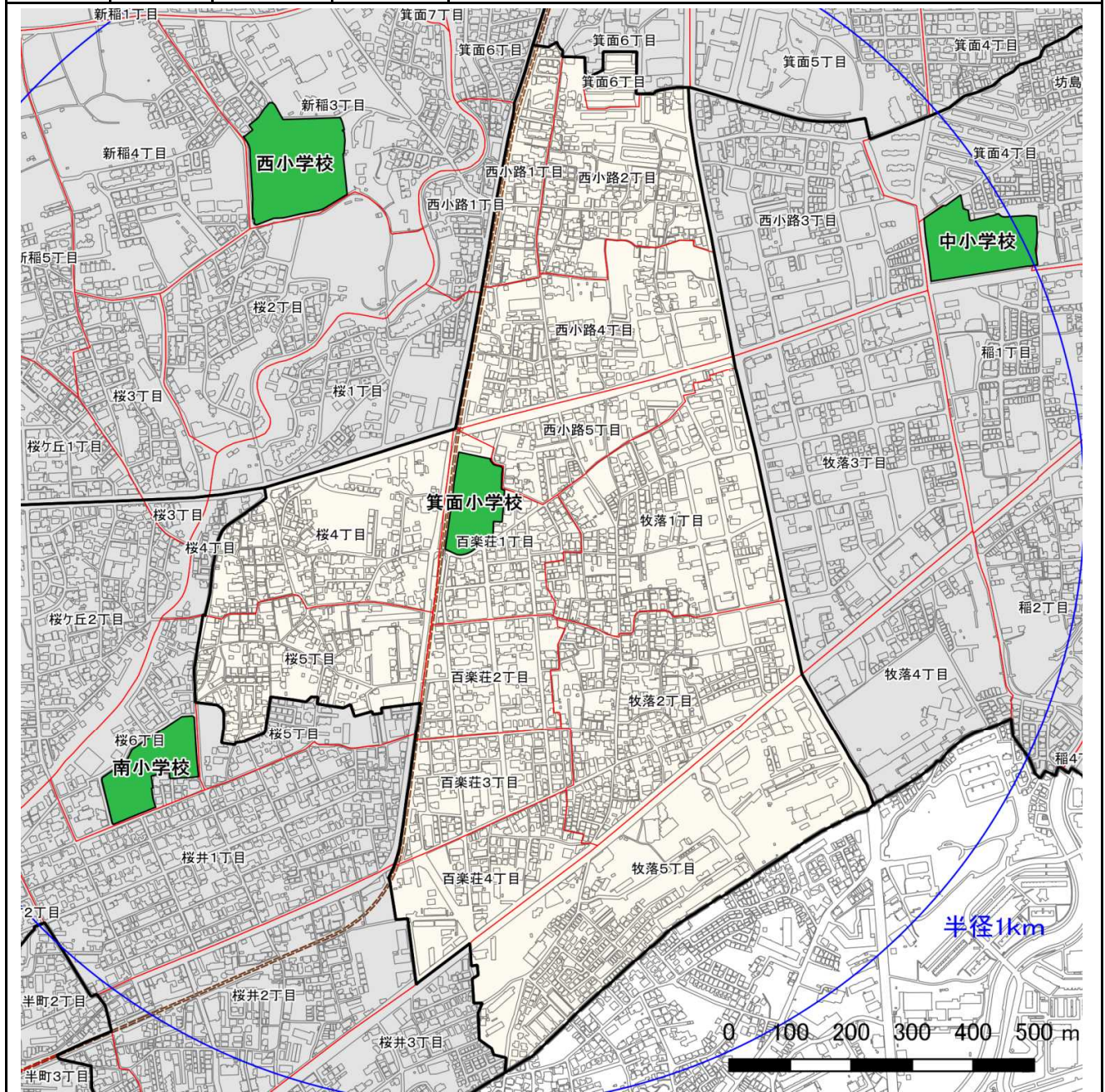
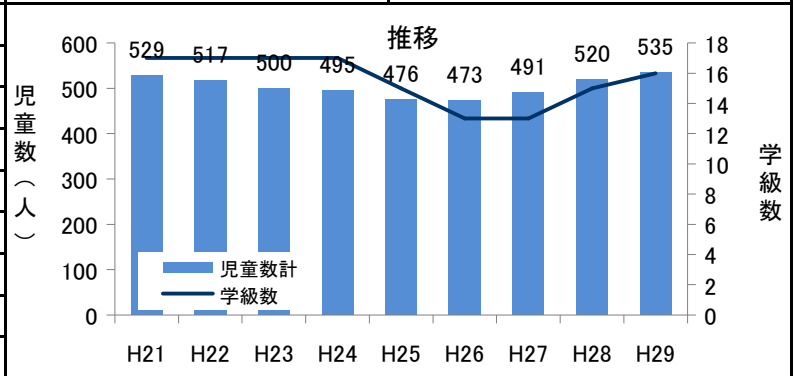
※止々呂美・彩都については、小中一貫校のため、プール付属室は中学校に含める。

箕面小学校

校区概況	校区人口 (総数)	10,202 人	校区面積	92.2 ha
	(子ども数)	557 人	人口密度	111 人/ha

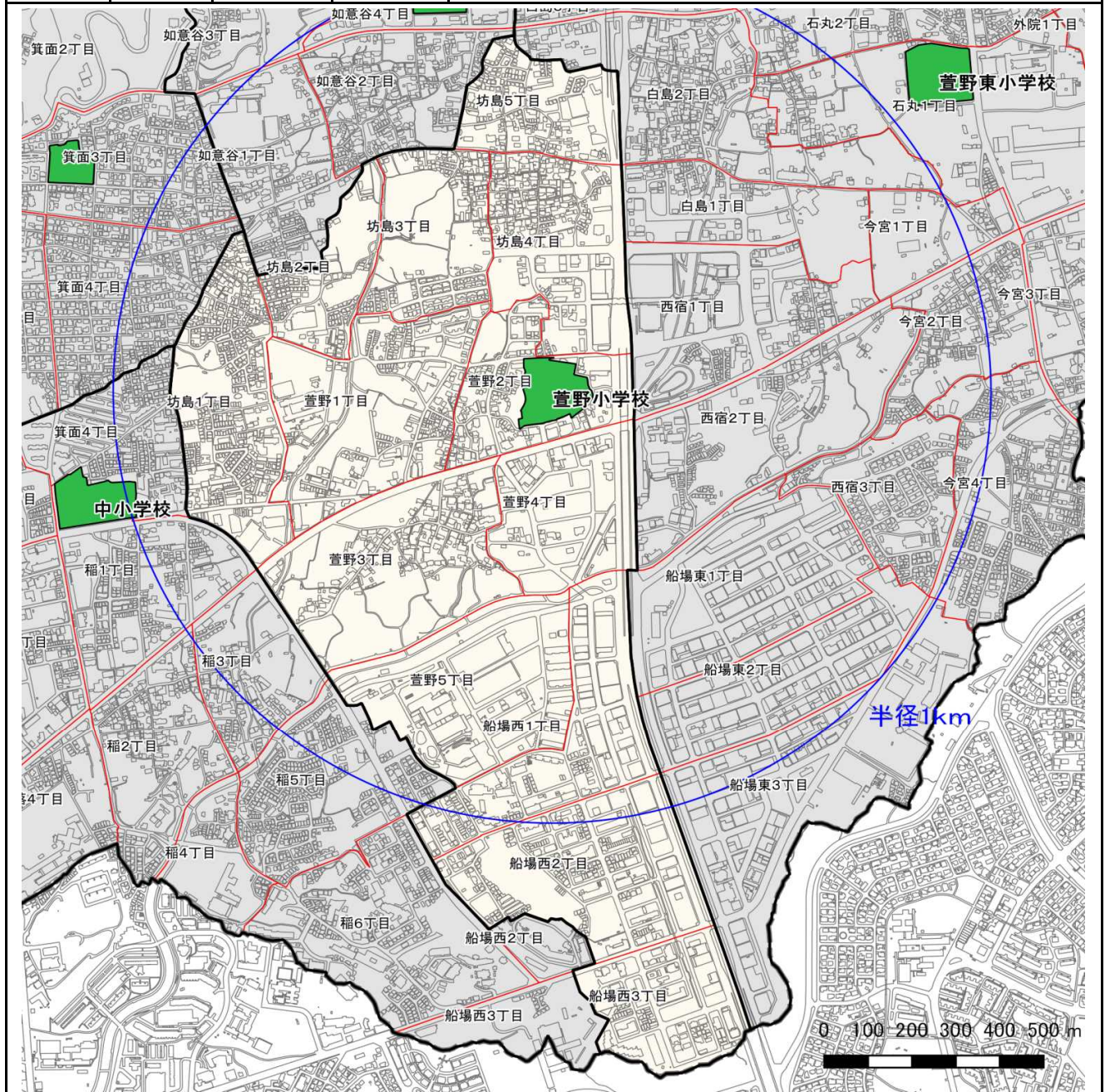
施設概況	設置年度	明治7(1874)年				
	敷地面積 (全体)	12,571 m ²	(うち運動場)	7,442 m ²	(うち運動場以外)	5,129 m ²
	校舎面積	8,070 m ²	屋内運動場	774 m ²	プール面積	399 m ²

児童概況	学年	学級数	児童数
	1年	3	97
	2年	3	90
	3年	3	111
	4年	2	77
	5年	2	75
	6年	3	85
総数	16	535	



萱野小学校

校区概況	校区人口 (総数)	10,970 人	校区面積	131.9 ha
	(子ども数)	673 人	人口密度	83 人/ha
施設概況	設置年度	明治12(1879)年		
	敷地面積 (全体)	14,484 m ²	(うち運動場)	7,152 m ² (うち運動場以外) 7,332 m ²
	校舎面積	8,484 m ²	屋内運動場	797 m ² プール面積 380 m ²
児童概況	教室数	34 室		
	学年	学級数	児童数	
	1年	3	110	
	2年	3	106	
	3年	3	107	
	4年	3	108	
	5年	3	115	
	6年	3	102	
総数	18	648		

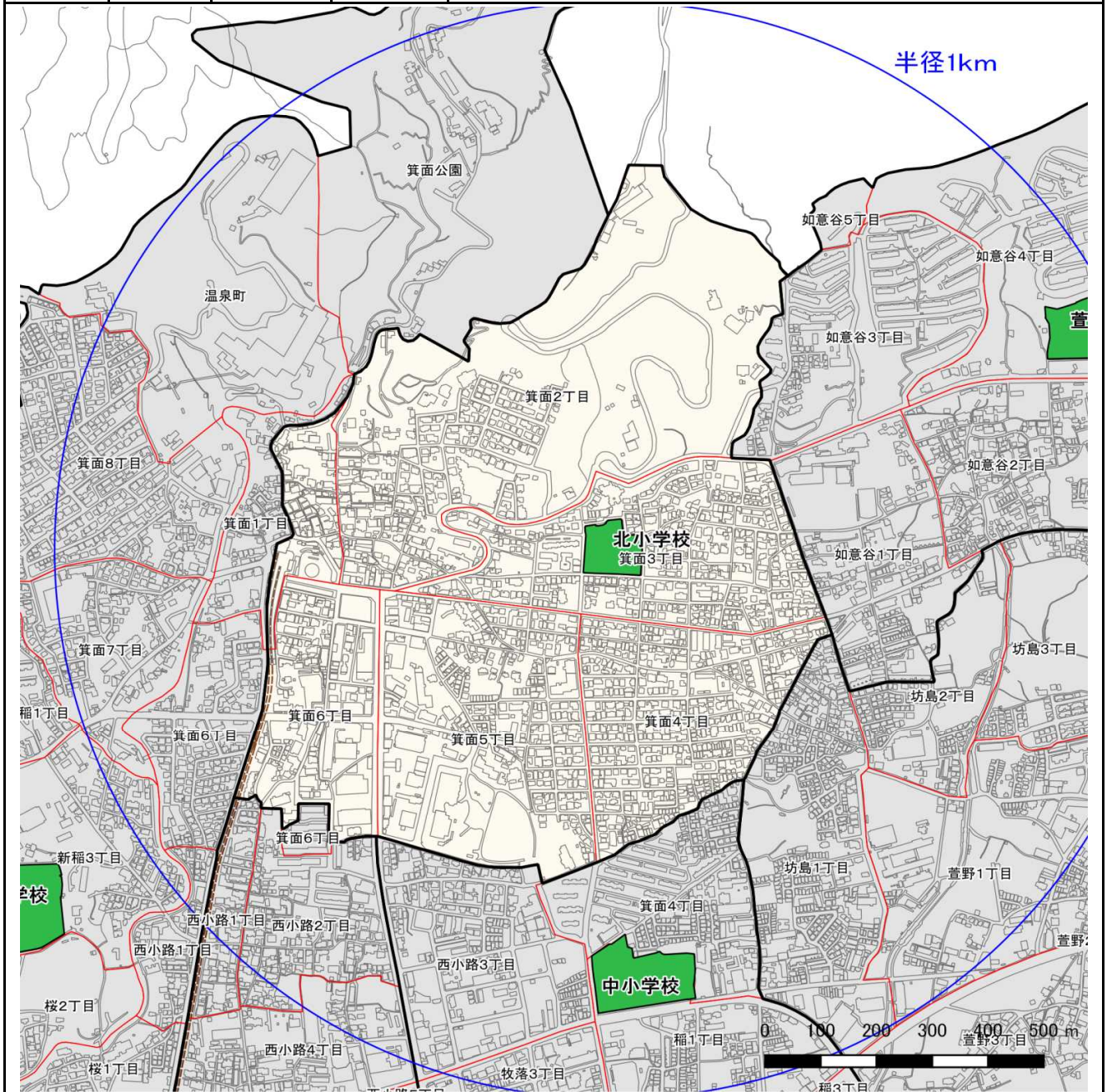
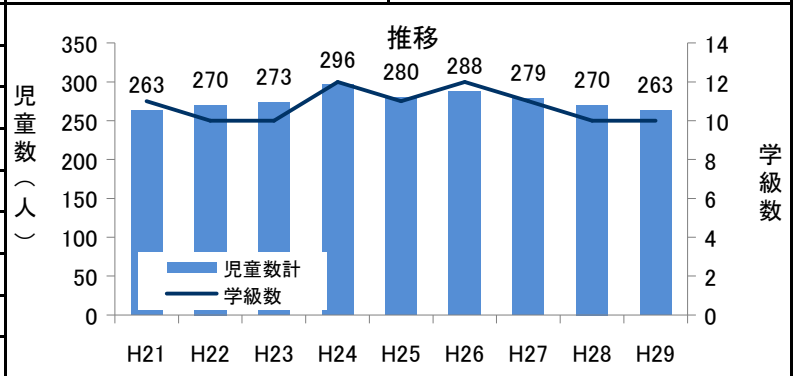


北小学校

校区概況	校区人口 (総数)	6,064 人	校区面積	62.4 ha
	(子ども数)	288 人	人口密度	97 人/ha

施設概況	設置年度	昭和20(1945)年				
	敷地面積 (全体)	8,485 m ²	(うち運動場)	3,440 m ²	(うち運動場以外)	5,045 m ²
	校舎面積	5,314 m ²	屋内運動場	735 m ²	プール面積	406 m ²

児童概況	教室数	23 室	
	学年	学級数	児童数
	1年	1	37
	2年	2	45
	3年	2	49
	4年	1	42
	5年	2	42
	6年	2	48
総数	10	263	

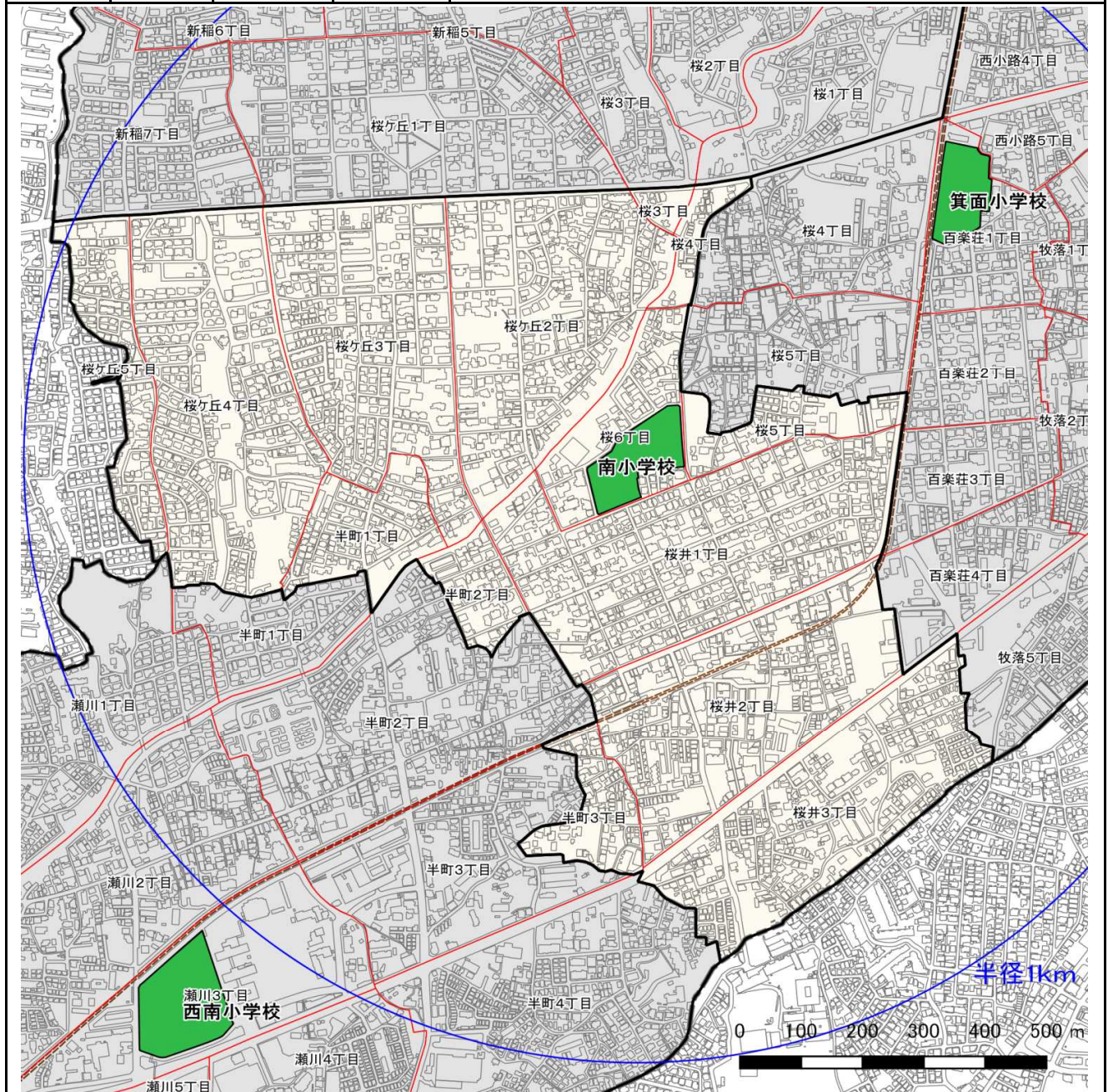
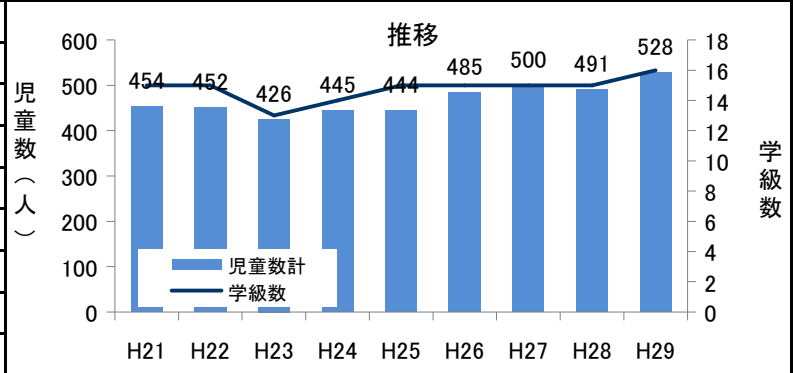


南小学校

校区概況	校区人口 (総数)	9,881 人	校区面積	103.3 ha
	(子ども数)	570 人	人口密度	96 人/ha

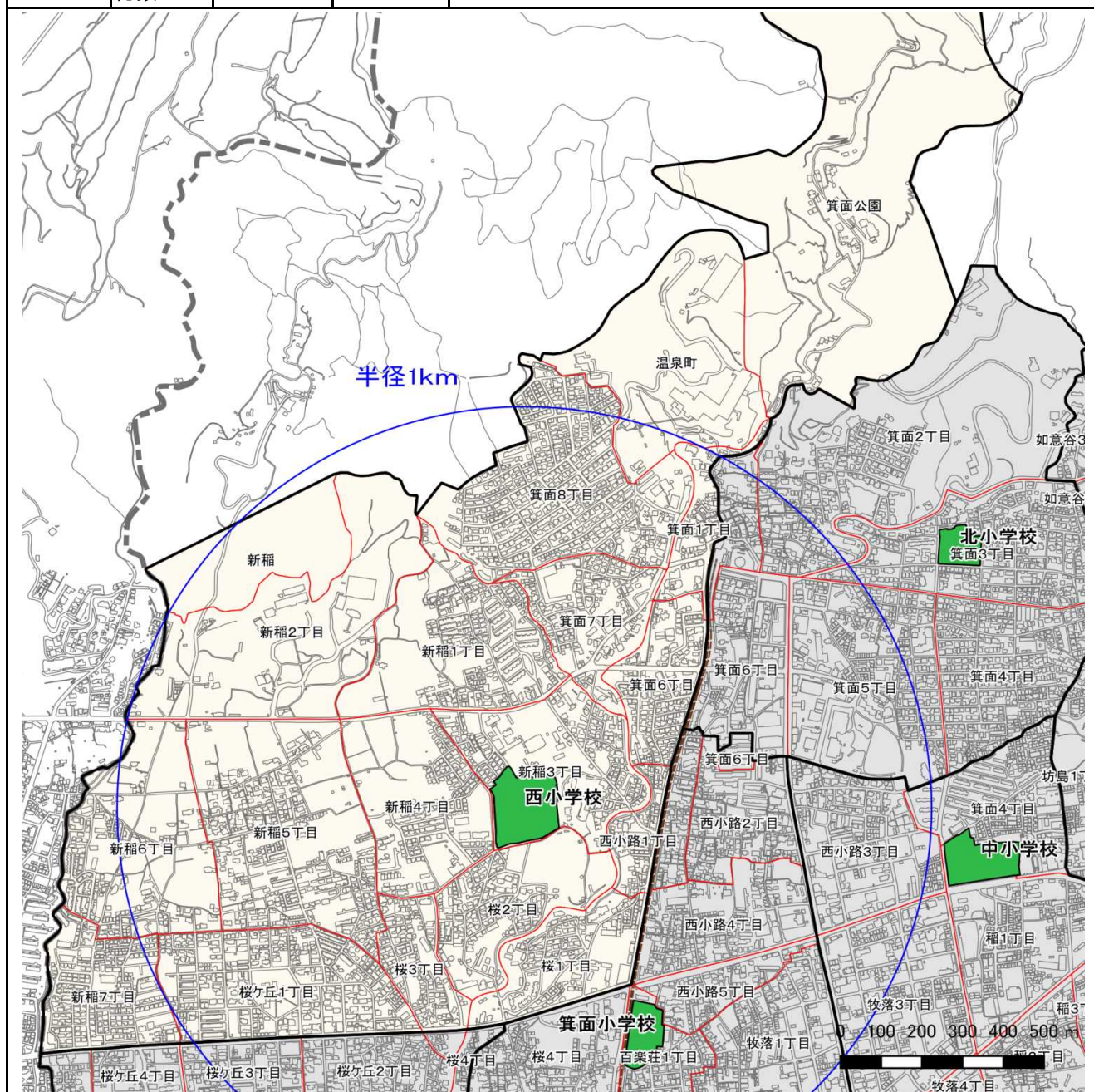
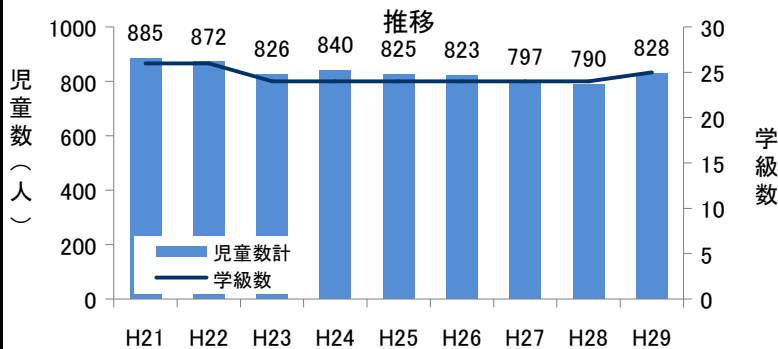
施設概況	設置年度	昭和28(1953)年				
	敷地面積 (全体)	15,052 m ²	(うち運動場)	5,099 m ²	(うち運動場以外)	9,953 m ²
	校舎面積	6,979 m ²	屋内運動場	726 m ²	プール面積	388 m ²

児童概況	学年	学級数	児童数
	1年	3	100
	2年	3	79
	3年	2	84
	4年	3	110
	5年	3	81
	6年	2	74
	総数	16	528



西小学校

校区概況	校区人口 (総数)	13,517 人	校区面積	107.8 ha
	(子ども数)	856 人	人口密度	125 人/ha
施設概況	設置年度	昭和40(1965)年		
	敷地面積 (全体)	23,153 m ²	(うち運動場)	8,138 m ² (うち運動場以外) 15,015 m ²
	校舎面積	7,997 m ²	屋内運動場	702 m ² プール面積 407 m ²
児童概況	教室数	43 室		
	学年	学級数	児童数	
	1年	5	149	
	2年	4	126	
	3年	4	138	
	4年	4	138	
	5年	4	140	
	6年	4	137	
総数	25	828		

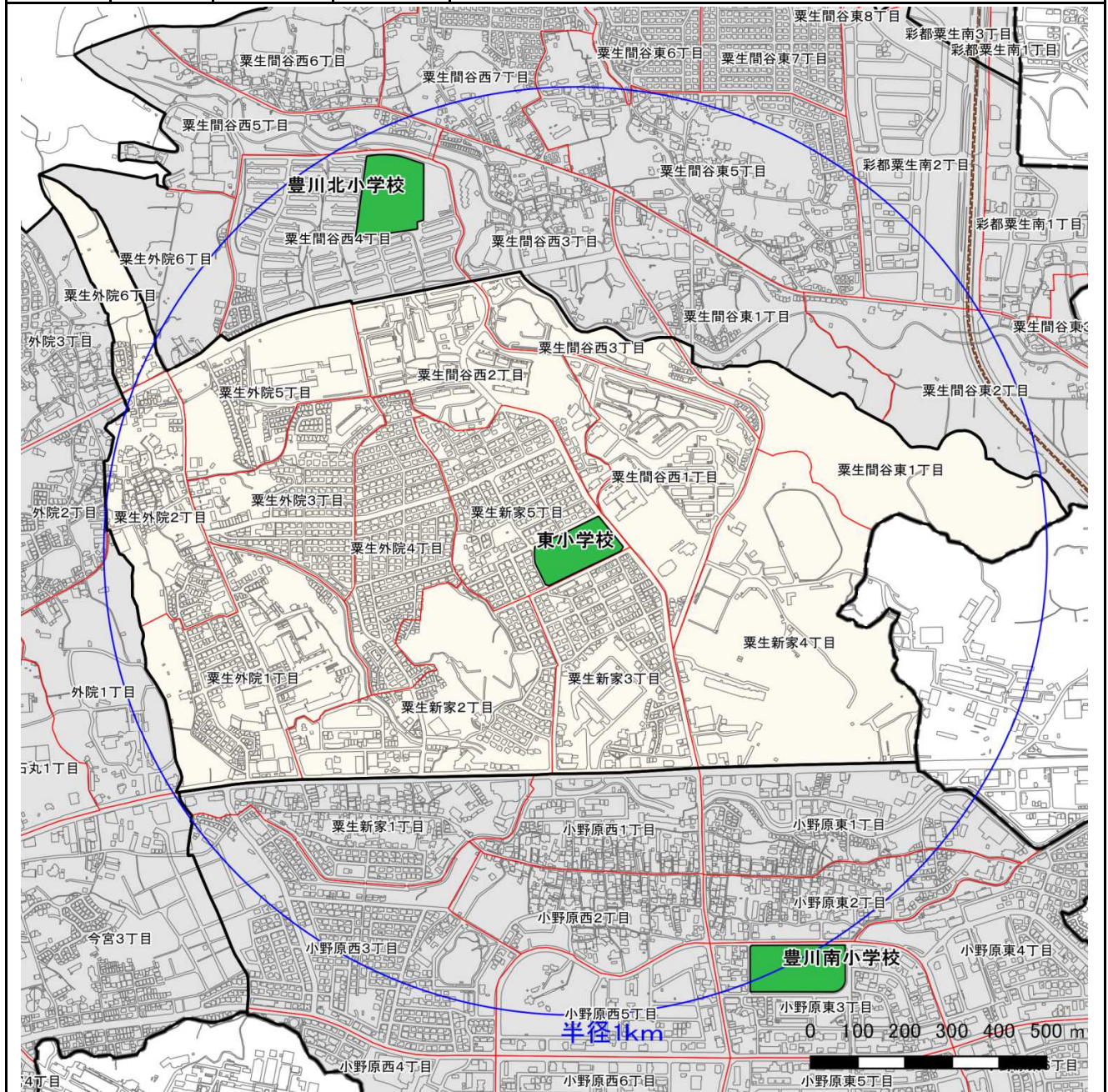
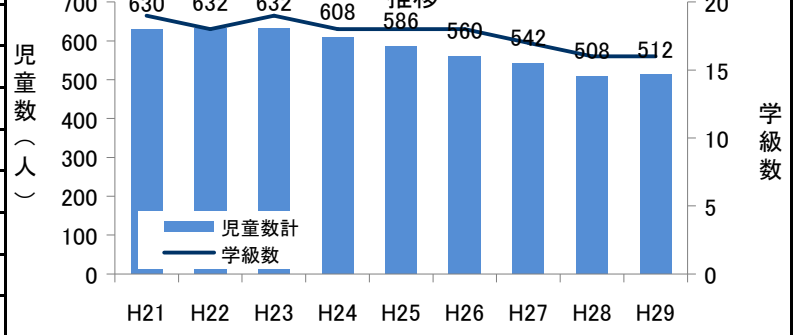


東小学校

校区概況	校区人口 (総数)	10,885 人	校区面積	142.7 ha
	(子ども数)	520 人	人口密度	76 人/ha

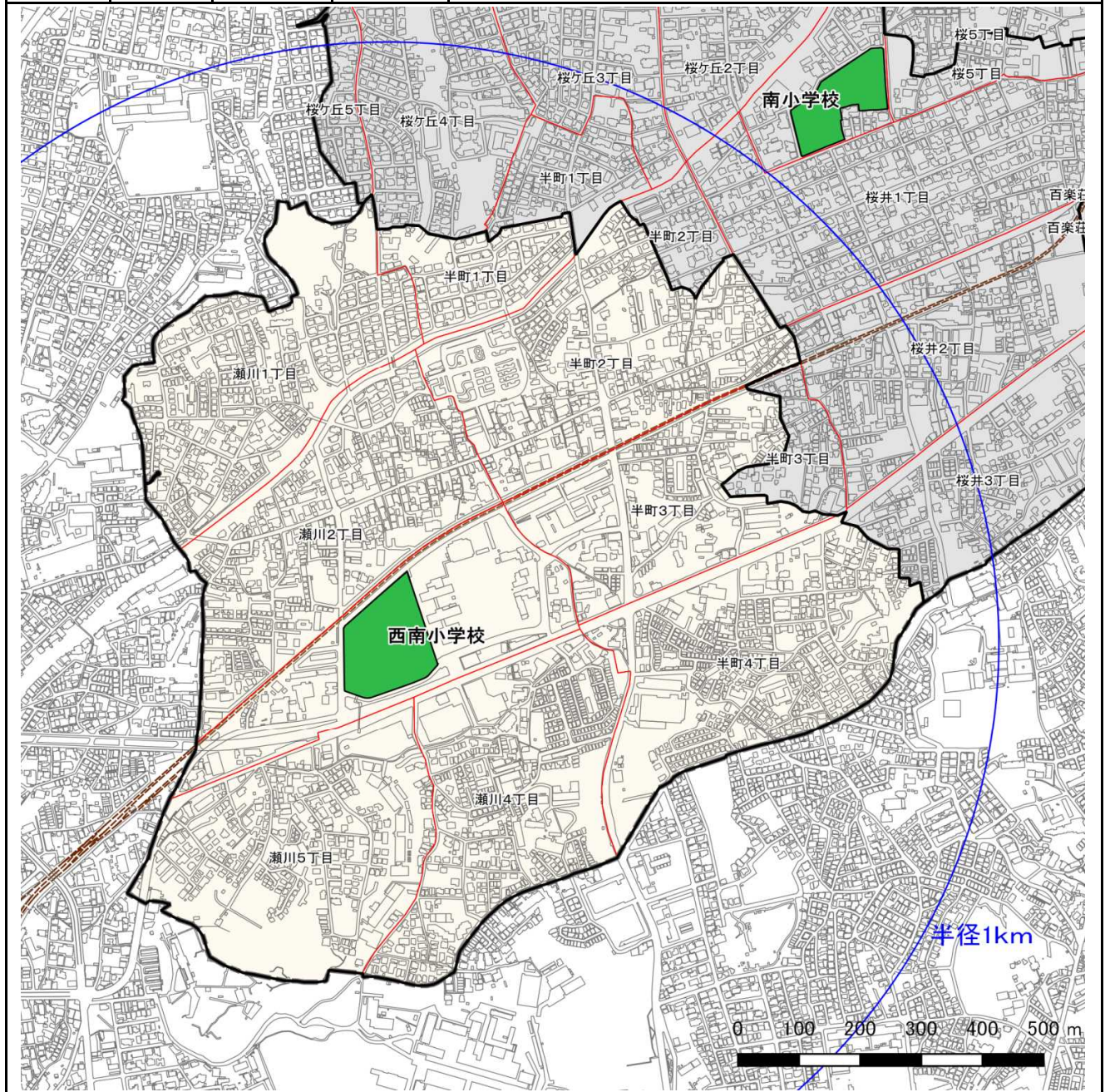
施設概況	設置年度	昭和43(1968)年				
	敷地面積 (全体)	19,835 m ²	(うち運動場)	7,800 m ²	(うち運動場以外)	12,035 m ²
	校舎面積	6,865 m ²	屋内運動場	694 m ²	プール面積	384 m ²

児童概況	学年	学級数	児童数
	1年	3	101
	2年	2	67
	3年	2	78
	4年	3	89
	5年	3	89
	6年	3	88
	総数	16	512



西南小学校

校区概況	校区人口 (総数)	12,811 人	校区面積	113.9 ha
	(子ども数)	710 人	人口密度	112 人/ha
施設概況	設置年度	昭和47(1972)年		
	敷地面積 (全体)	19,951 m ²	(うち運動場)	9,368 m ² (うち運動場以外) 10,583 m ²
	校舎面積	7,378 m ²	屋内運動場	832 m ² プール面積 398 m ²
児童概況	教室数	37 室		
	学年	学級数	児童数	
	1年	4	119	
	2年	4	114	
	3年	3	125	
	4年	3	112	
	5年	4	129	
	6年	3	102	
総数	21	701		

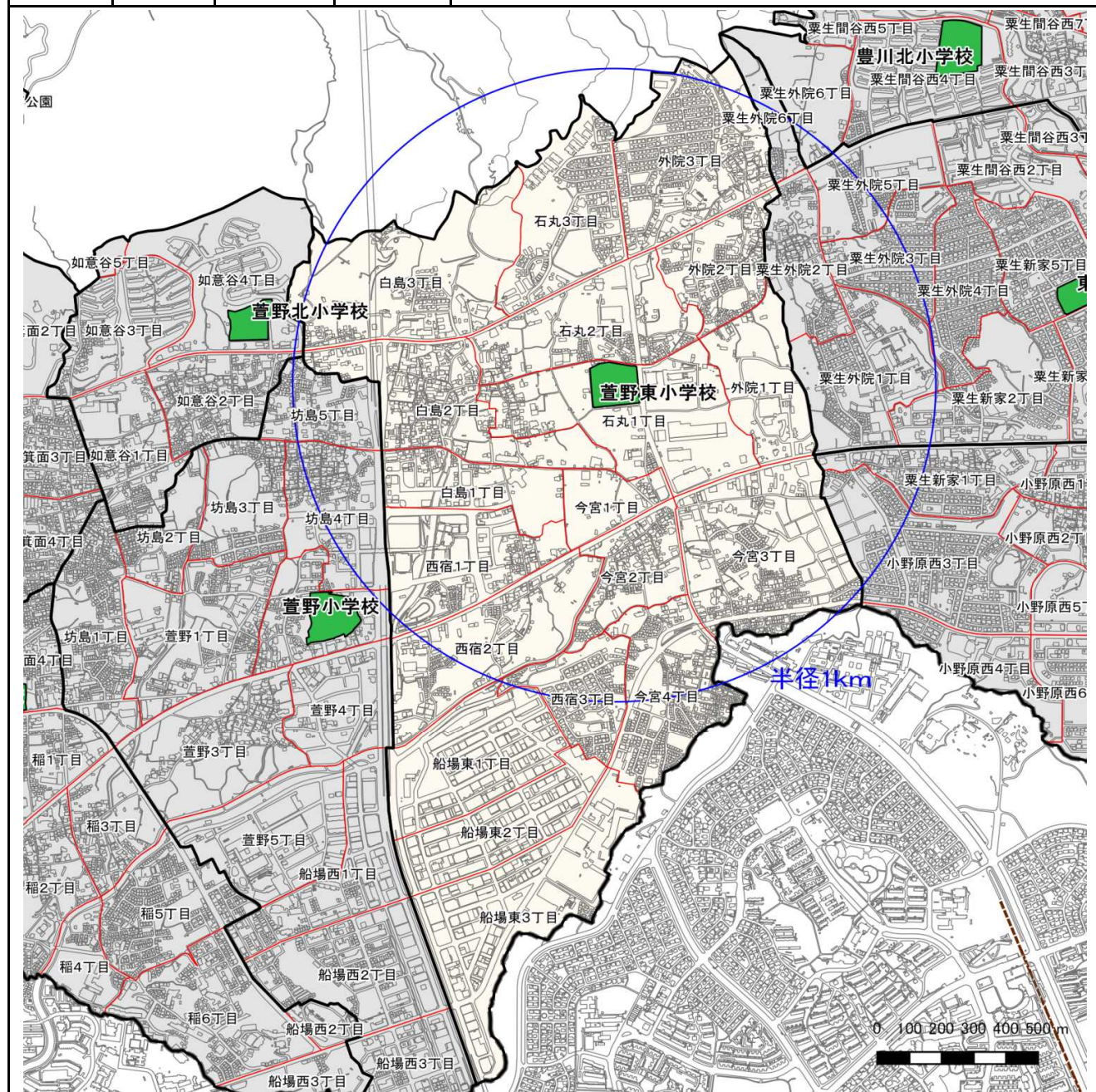
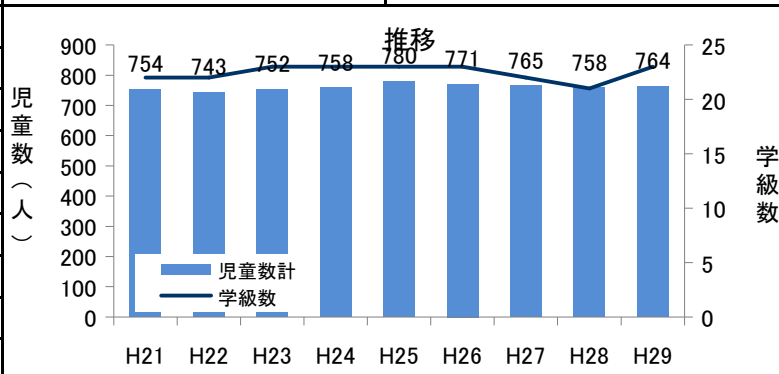


萱野東小学校

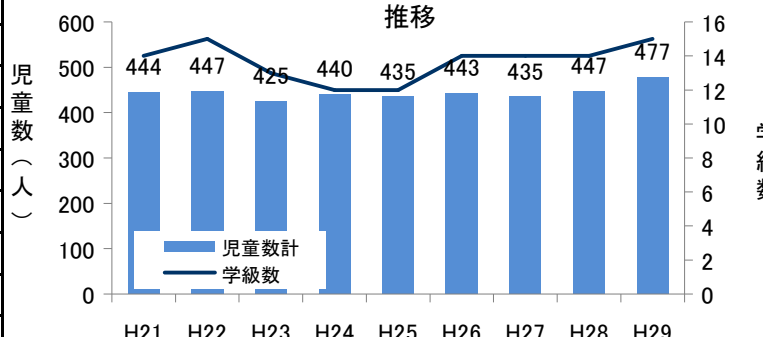
校区概況	校区人口 (総数)	12,987 人	校区面積	219.2 ha
	(子ども数)	784 人	人口密度	59 人/ha

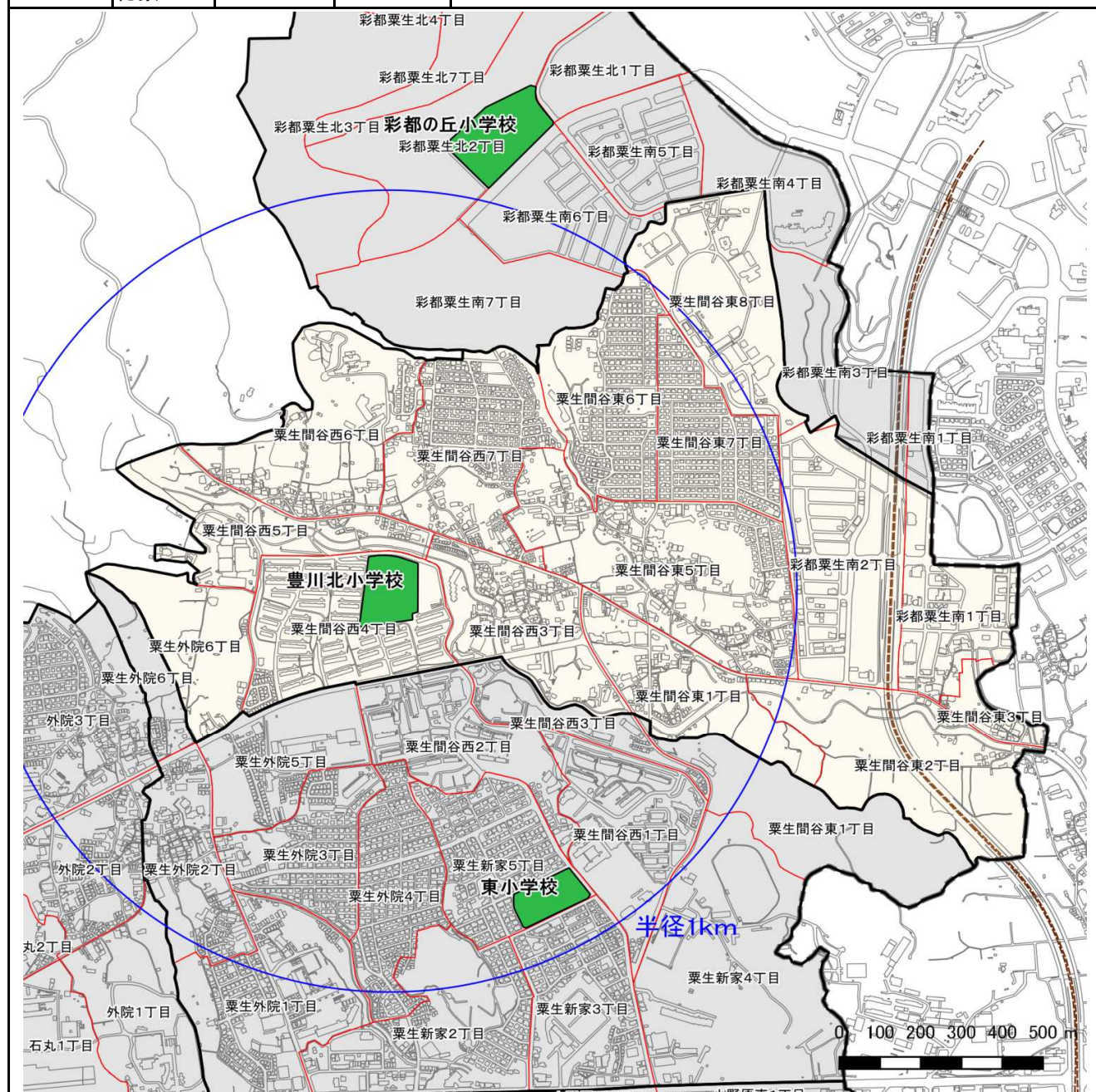
施設概況	設置年度	昭和48(1973)年				
	敷地面積 (全体)	19,694 m ²	(うち運動場)	8,639 m ²	(うち運動場以外)	11,055 m ²
	校舎面積	6,754 m ²	屋内運動場	712 m ²	プール面積	391 m ²

児童概況	学年	学級数	児童数
	1年	4	121
	2年	4	125
	3年	4	137
	4年	4	123
	5年	3	124
	6年	4	134
	総数	23	764



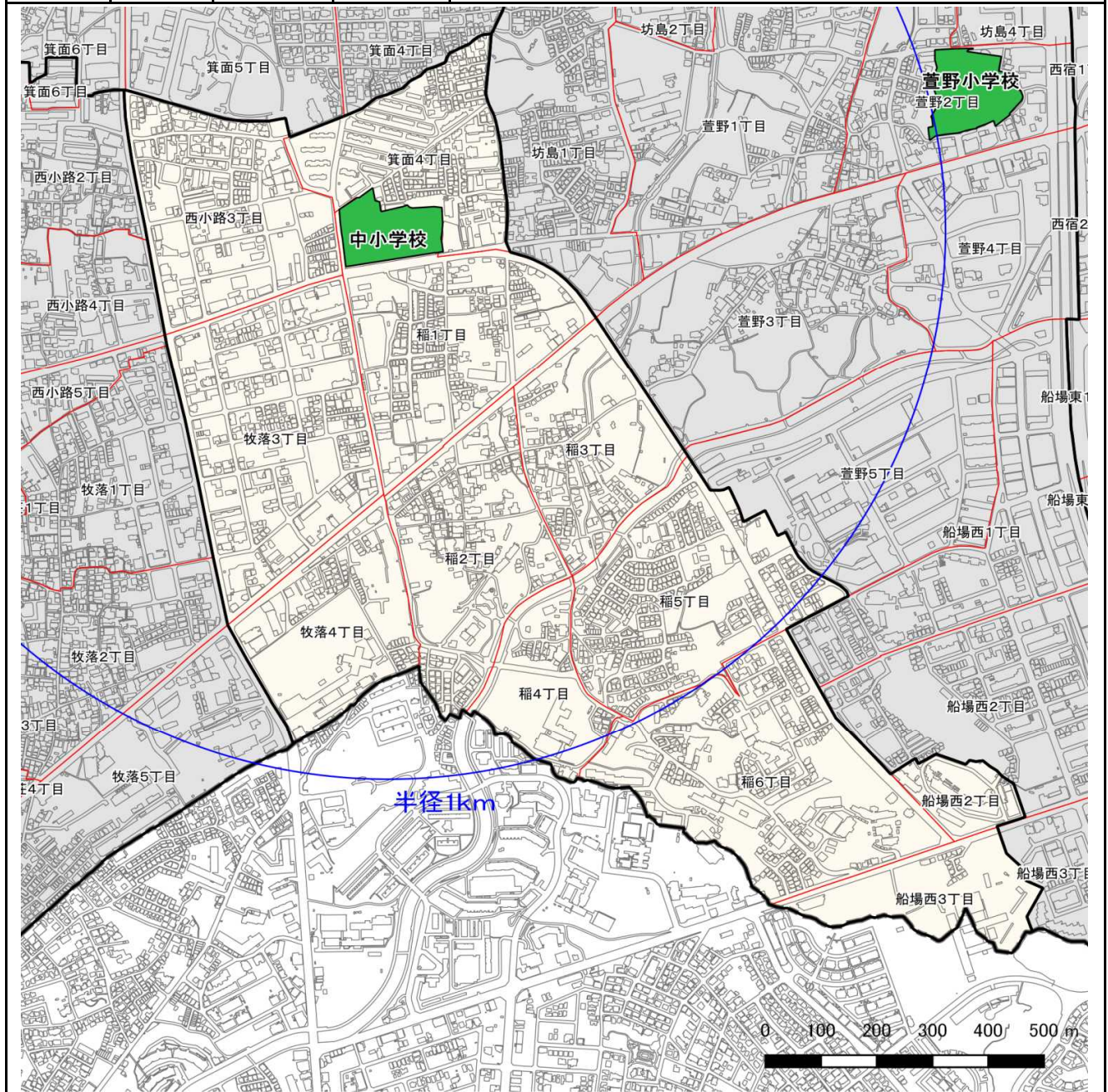
豊川北小学校

校区概況	校区人口 (総数)	9,452 人	校区面積	126.6 ha																														
	(子ども数)	486 人	人口密度	75 人/ha																														
施設概況	設置年度	昭和50(1975)年																																
	敷地面積 (全体)	20,000 m ²	(うち運動場)	10,641 m ² (うち運動場以外) 9,359 m ²																														
	校舎面積	7,321 m ²	屋内運動場	726 m ² プール面積 388 m ²																														
児童概況	教室数	34 室																																
	学年	学級数	児童数	 <table border="1"> <caption>推移 (推移) 児童数 (人) と 学級数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>児童数計 (人)</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>444</td><td>12</td></tr> <tr><td>H22</td><td>447</td><td>14</td></tr> <tr><td>H23</td><td>425</td><td>12</td></tr> <tr><td>H24</td><td>440</td><td>12</td></tr> <tr><td>H25</td><td>435</td><td>12</td></tr> <tr><td>H26</td><td>443</td><td>13</td></tr> <tr><td>H27</td><td>435</td><td>12</td></tr> <tr><td>H28</td><td>447</td><td>13</td></tr> <tr><td>H29</td><td>477</td><td>14</td></tr> </tbody> </table>	年度	児童数計 (人)	学級数	H21	444	12	H22	447	14	H23	425	12	H24	440	12	H25	435	12	H26	443	13	H27	435	12	H28	447	13	H29	477	14
	年度	児童数計 (人)	学級数																															
	H21	444	12																															
	H22	447	14																															
	H23	425	12																															
	H24	440	12																															
	H25	435	12																															
H26	443	13																																
H27	435	12																																
H28	447	13																																
H29	477	14																																
1年	3	84																																
2年	3	86																																
3年	2	81																																
4年	3	80																																
5年	2	77																																
6年	2	69																																
総数	15	477																																



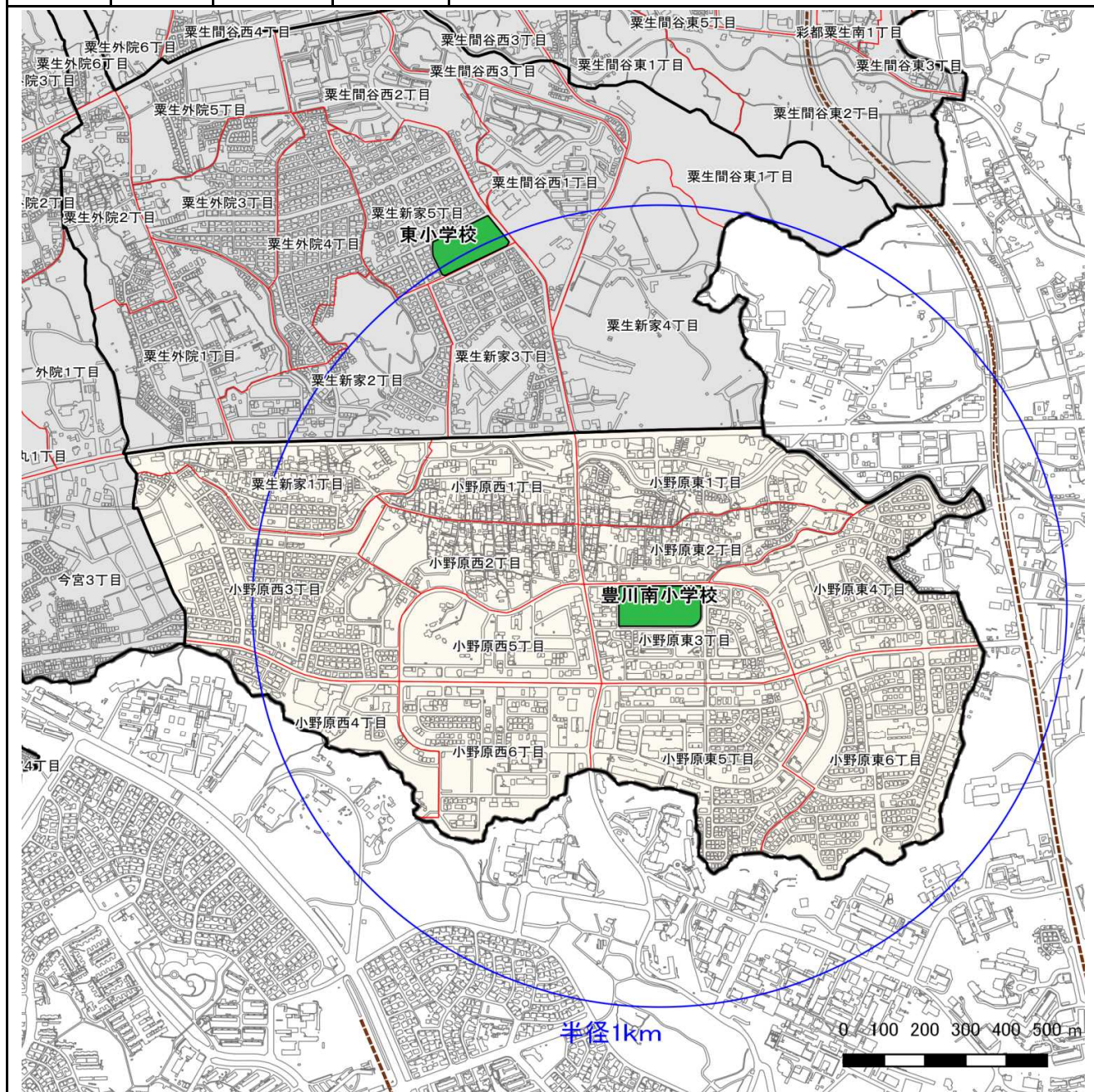
中小学校

校区概況	校区人口 (総数)	10,911 人	校区面積	114.8 ha																														
	(子ども数)	767 人	人口密度	95 人/ha																														
施設概況	設置年度	昭和54(1979)年																																
	敷地面積 (全体)	18,044 m ²	(うち運動場)	7,515 m ² (うち運動場以外) 10,529 m ²																														
	校舎面積	8,274 m ²	屋内運動場	726 m ² プール面積 399 m ²																														
児童概況	教室数	41 室																																
	学年	学級数	児童数	<table border="1"> <caption>児童数と学級数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>児童数計</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>647</td><td>20</td></tr> <tr><td>H22</td><td>676</td><td>20</td></tr> <tr><td>H23</td><td>673</td><td>20</td></tr> <tr><td>H24</td><td>697</td><td>20</td></tr> <tr><td>H25</td><td>725</td><td>21</td></tr> <tr><td>H26</td><td>733</td><td>21</td></tr> <tr><td>H27</td><td>736</td><td>21</td></tr> <tr><td>H28</td><td>731</td><td>21</td></tr> <tr><td>H29</td><td>757</td><td>22</td></tr> </tbody> </table>	年度	児童数計	学級数	H21	647	20	H22	676	20	H23	673	20	H24	697	20	H25	725	21	H26	733	21	H27	736	21	H28	731	21	H29	757	22
	年度	児童数計	学級数																															
	H21	647	20																															
	H22	676	20																															
	H23	673	20																															
	H24	697	20																															
	H25	725	21																															
H26	733	21																																
H27	736	21																																
H28	731	21																																
H29	757	22																																
1年	4	116																																
2年	3	112																																
3年	4	133																																
4年	4	127																																
5年	4	142																																
6年	4	127																																
総数	23	757																																



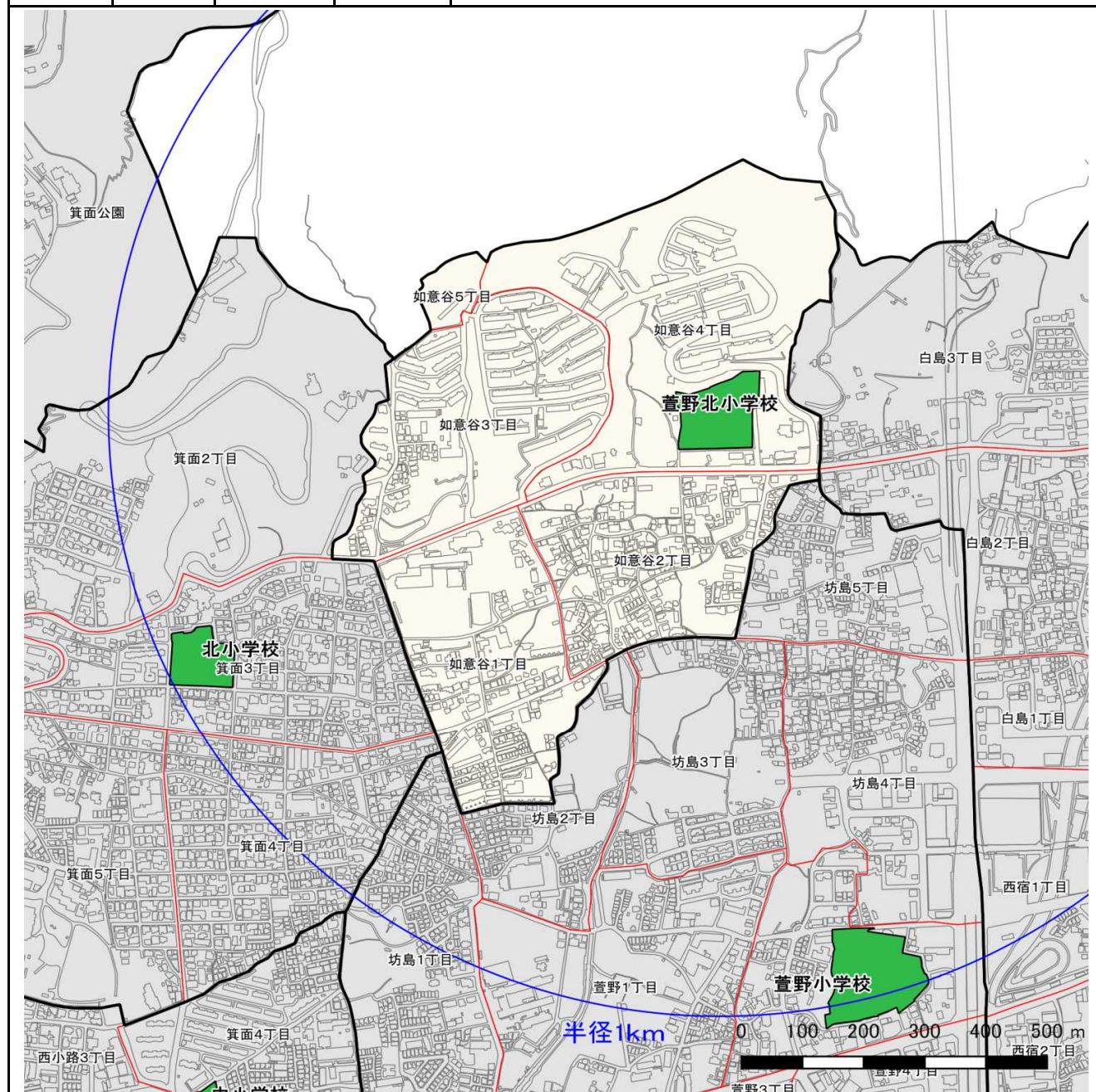
豊川南小学校

校区概況	校区人口 (総数)	13,891 人	校区面積	167.5 ha
	(子ども数)	928 人	人口密度	83 人/ha
施設概況	設置年度	昭和54(1979)年		
	敷地面積 (全体)	20,000 m ²	(うち運動場)	7,954 m ² (うち運動場以外) 12,046 m ²
	校舎面積	8,282 m ²	屋内運動場	726 m ² プール面積 412 m ²
児童概況	教室数	47 室		
	学年	学級数	児童数	
	1年	5	151	
	2年	5	149	
	3年	4	156	
	4年	4	134	
	5年	4	154	
	6年	4	141	
総数	26	885		



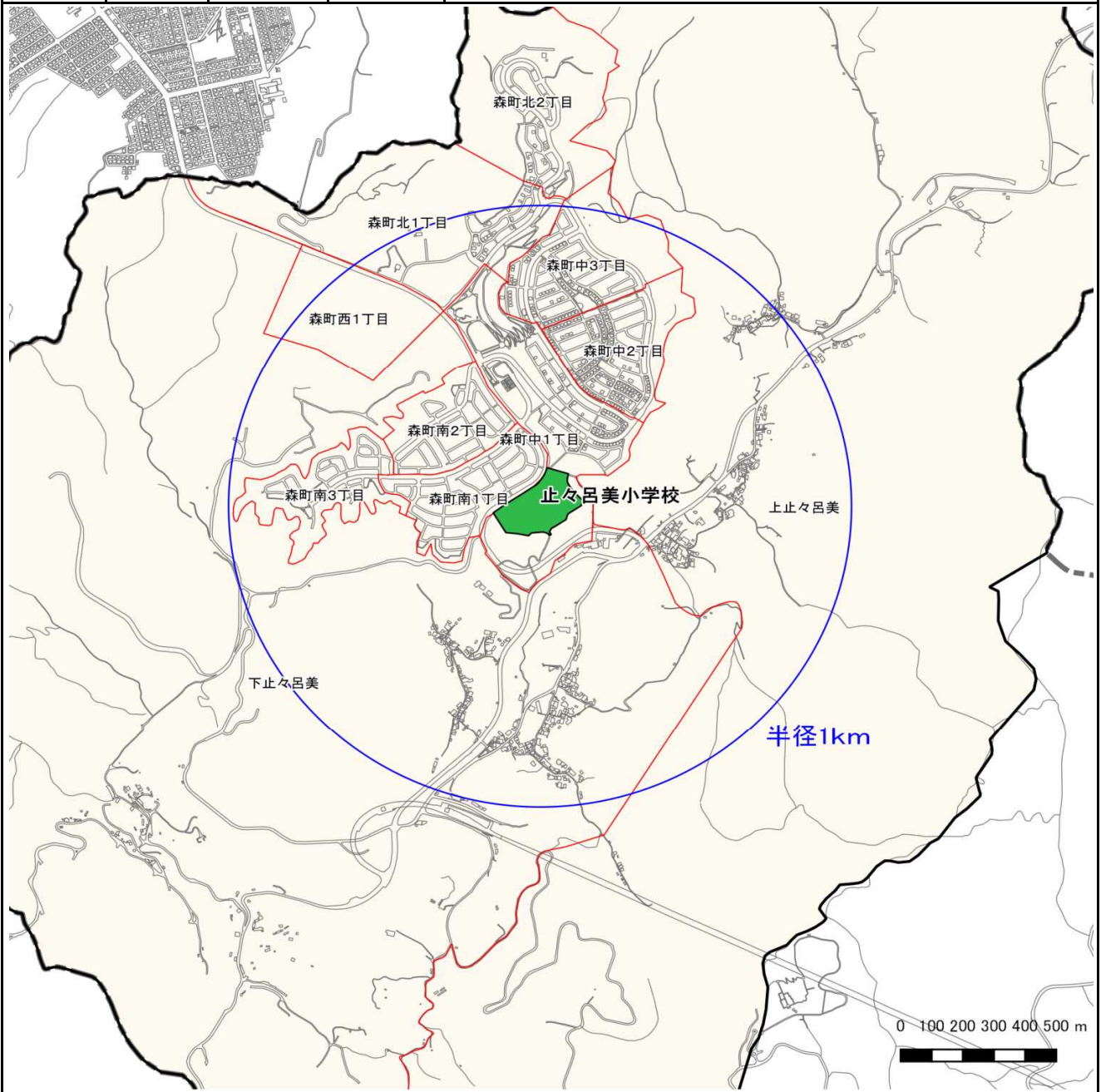
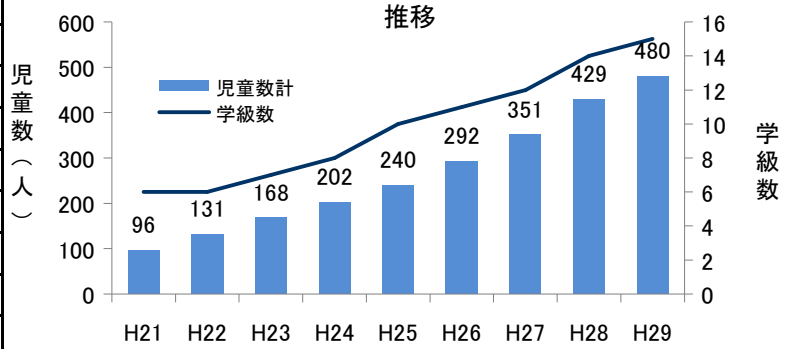
萱野北小学校

校区概況	校区人口 (総数)	5,571 人	校区面積	32.6 ha																														
	(子ども数)	275 人	人口密度	171 人/ha																														
施設概況	設置年度	昭和58(1983)年																																
	敷地面積 (全体)	13,589 m ²	(うち運動場)	5,116 m ² (うち運動場以外) 8,473 m ²																														
	校舎面積	6,377 m ²	屋内運動場	721 m ² プール面積 431 m ²																														
児童概況	教室数	29 室																																
	学年	学級数	児童数	<table border="1"> <caption>児童数と学級数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>児童数計 (人)</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>320</td><td>10</td></tr> <tr><td>H22</td><td>342</td><td>11</td></tr> <tr><td>H23</td><td>330</td><td>10</td></tr> <tr><td>H24</td><td>308</td><td>11</td></tr> <tr><td>H25</td><td>301</td><td>11</td></tr> <tr><td>H26</td><td>289</td><td>10</td></tr> <tr><td>H27</td><td>284</td><td>10</td></tr> <tr><td>H28</td><td>266</td><td>9</td></tr> <tr><td>H29</td><td>270</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	年度	児童数計 (人)	学級数	H21	320	10	H22	342	11	H23	330	10	H24	308	11	H25	301	11	H26	289	10	H27	284	10	H28	266	9	H29	270	10
	年度	児童数計 (人)	学級数																															
	H21	320	10																															
	H22	342	11																															
	H23	330	10																															
	H24	308	11																															
	H25	301	11																															
H26	289	10																																
H27	284	10																																
H28	266	9																																
H29	270	10																																
1年	2	42																																
2年	2	38																																
3年	2	47																																
4年	2	58																																
5年	2	44																																
6年	2	41																																
総数	12	270																																



止々呂美小学校

校区概況	校区人口	(総数) 3,427 人 (子ども数) 472 人	校区面積	110.0 ha		
			人口密度	31 人/ha		
施設概況	設置年度	明治8(1875)年				
	敷地面積 (全体)	12,411 m ²	(うち運動場)	4,244 m ²	(うち運動場以外)	8,167 m ²
	校舎面積	5,420 m ²	屋内運動場	649 m ²	プール面積	415 m ²
児童概況	教室数	29 室				
	学年	学級数	児童数			
	1年	3	96			
	2年	3	102			
	3年	3	88			
	4年	2	76			
	5年	2	67			
	6年	2	51			
総数	15	480				

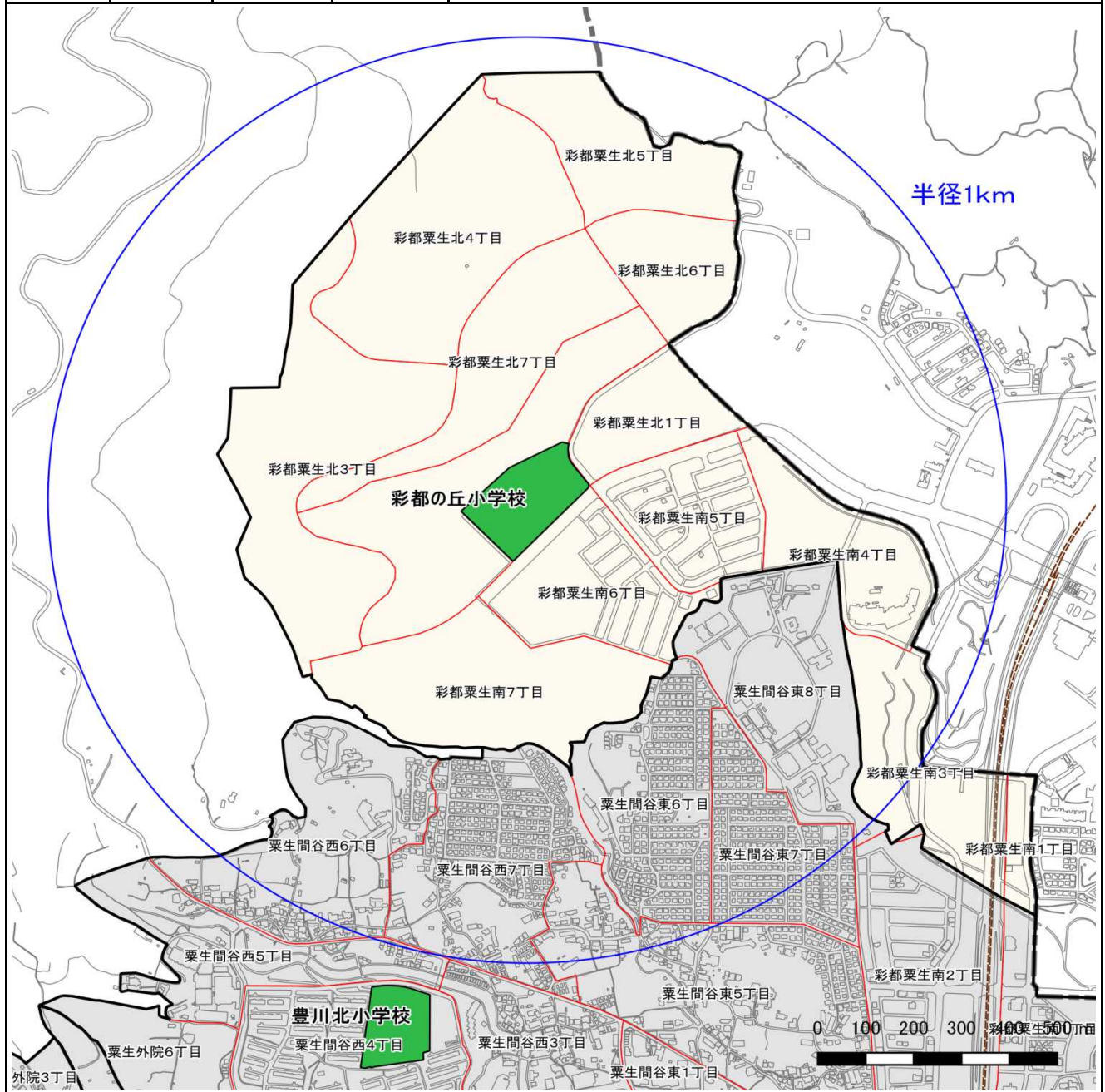
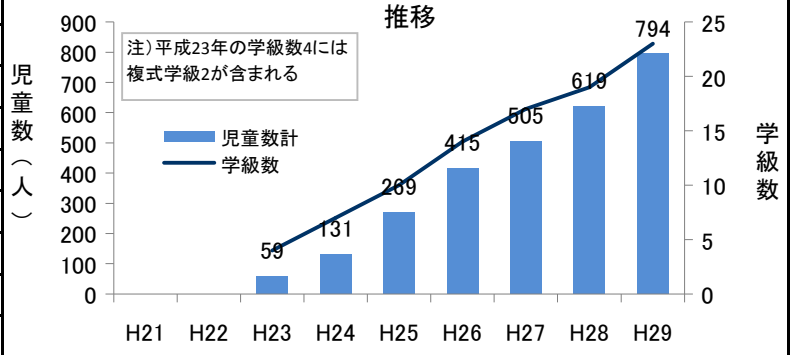


彩都の丘小学校

校区概況	校区人口 (総数)	4,723 人	校区面積	93.6 ha
	(子ども数)	781 人	人口密度	50 人/ha

施設概況	設置年度	平成23(2011)年				
	敷地面積 (全体)	13,720 m ²	(うち運動場)	5,066 m ²	(うち運動場以外)	8,654 m ²
	校舎面積	7,380 m ²	屋内運動場	934 m ²	プール面積	491 m ²

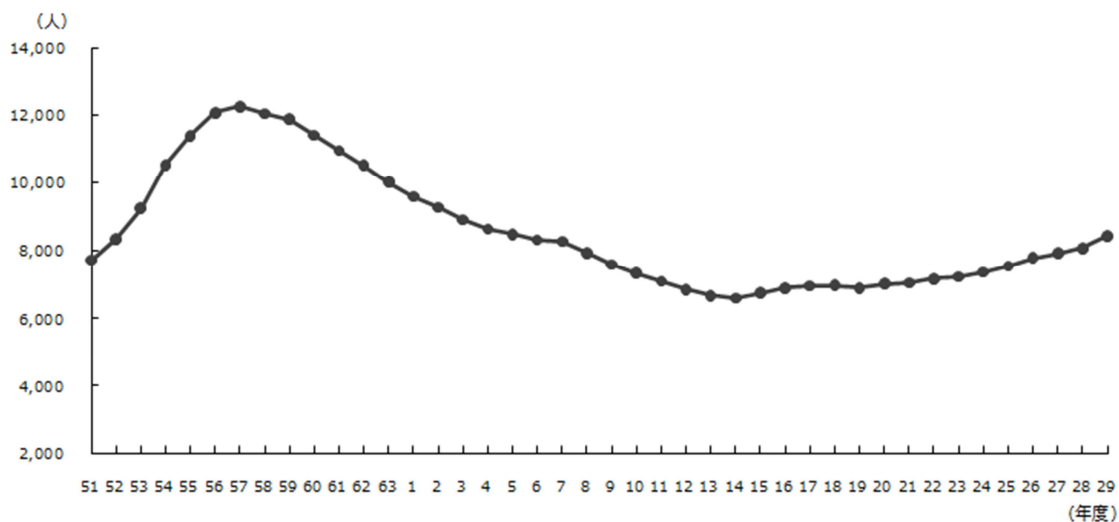
児童概況	学年	学級数	児童数
	1年	6	202
	2年	5	159
	3年	4	134
	4年	3	120
	5年	3	108
	6年	2	71
	総数	23	794



(3) 今後の児童数の見通し

① 児童数の推移

箕面市の児童数は、昭和57年をピークに、その後減少が続いていたが、平成14年を底として再びゆるやかな増加傾向となっている。



箕面市教育委員会資料

② 校区調整における前提

全国的には少子化が問題となる中、箕面市の児童数は増加傾向にあり、小野原、箕面森町、彩都といった新市街地への人口流入だけではなく、既成市街地においてもゆるやかに増加している。

第1次報告書において「現時点で高齢化を迎え児童数が少ない校区でも近い将来まちの若返りやそれに伴う人口流入が急激に発生する」と述べたが、実際に、箕面小校区や南小校区では、大規模な住宅供給はないものの、住民の世代交代や、古い大きな家を取り壊され数軒のまとまった住宅が開発されて子育て世代が流入する例が多く見られ、児童数は数年前から徐々に回復してきている(10ページ及び13ページ参照)。

また、ピーク時に比べれば児童数は減少しているが、近年では少人数指導の実施や支援学級の増加、学童保育の需要の伸びと対象年齢の拡大によって必要な教室数は増加しており、現に中小学校でも平成28年度に増築を行ったように、市全体として学校施設に余裕がない状態である。

今後、北大阪急行線の延伸に伴い、箕面市が子育て世代にとってさらに魅力的なまちになり、児童数がさらに増加することを見通せば、現在よりも学校数を減少させる可能性について考える必要はなく、船場地区に学校を新設することによって学校数を純増させることを前提とするべきである。

2. 校区の適正規模

(1) 基本的な考え方

第1次報告書では、箕面市全域で校区調整を行うことの必要性や、校区調整の手法及び考慮すべき点を次のようにまとめた。

4. 箕面市全域での校区調整の必要性

3. で示したとおり、人口構成については各校区でバラツキがあるのが現状である。これは箕面市のまちの成り立ちに起因しており、早くから市街化し、現在まちの更新期を迎えている西部地域、その後徐々に市街化が進んだ中部・東部地域、小野原や彩都、箕面森町といった新市街地など、エリアによってまちの成立時期が異なるため、人口構成にバラツキが生じているのである。

しかし、この人口構成は将来にわたり固定化されるものではない。現在高齢化を迎えている校区ではむしろ、近い将来まちの若返りやそれに伴う人口流入が急激に発生する。一方、子育て世代が急増している地域では、いずれその地域全体が高齢化する。それぞれのエリアごとにこのサイクルが繰り返されるため、今後も、地域によって異なるタイミングで、まちの世代交代・人口増減が起こっていくことになる。

こうした状況に対応していくため、その都度局所的な校区再編を繰り返していくことも考えられるが、小学校区は様々な地域コミュニティの活動単位になっているため、小規模な校区再編であっても地域住民を巻き込まざるを得ず、何度も行うことは現実的ではない。

2. で示したとおり、船場地区から校区調整の検討を始めたとしても、それだけで市の広範囲に影響が及ぶことから、今回の検討をひとつの契機と捉え、船場地区の人口増加への対応という局所的な視点ではなく、可能な限り人口増減に左右されない「長期にわたって安定的な校区」をめざし、全市的な校区調整を行うことが必要である。

5. 校区調整の手法及び考慮すべき視点

全市的な校区調整を行っていくとすれば、地域活動におけるその影響は大きい。したがって、地域住民の意見を十分に聴き、納得を得られるよう、慎重に調整を進めていくべきである。ただし、4. で示したように、今回の見直しは、あくまで「長期にわたって安定的な校区」になることを目指すものであり、短期的なメリット・デメリットに左右されない、冷静な議論が必要である。そのためには、見直し後の校区への移行期間を十分に設けるとともに、地域の諸活動や児童の生活への影響が極力少なくなるような経過措置を併せて検討することが重要である。

具体的には、以下の視点を考慮しながら、校区調整を進めていく必要がある。

○長期にわたって安定的な校区とするための視点

- a. 通学条件…通学距離が遠すぎず、歩いて容易かつ安全に通学できること
- b. 教育環境…人口増減に極力左右されない指標（学校敷地面積や校舎面積等）で校区の規模を検討すること

資料：校区調整に関する分析結果[第1次報告]

(2)各校区の人口変動に左右されにくい安定的な指標の設定について

①通学条件の観点からの指標

通学条件のうち「通学距離」は、児童の安全確保などの観点から重要な要素である。また、当然ながら人口増減などの変動しやすい要素に影響を受けることはなく、安定的な指標である。

なお、箕面市では従来から、小学1年生でも容易に歩ける距離を1kmとしており、校区調整においても小学校から半径1km圏内に収まる校区設定をめざすべきである。

②教育環境の観点からの指標

第1次報告書において考慮すべき視点として挙げた「人口増減に極力左右されない指標で校区の規模を検討すること」について詳述する。

まず、「人口増減に左右されない」という点について述べる。

箕面市は、地域によってまちの成立時期が異なるため、地域ごとに人口構成にバラツキがあり、今後も、地域によって異なるタイミングで、まちの世代交代・人口増減が起こっていくと第1次報告書で述べた（13ページ参照）。

例えば、ある時点において、高齢化率が高い地区にあり児童数が少ないA小学校区と、高齢化率が低い地区にあり児童数が多いB小学校区があったとする。この場合、A小学校の校区を広くして児童数を増やし、B小学校の校区を狭くして児童数を減らすことによって、両校区の児童数の均衡を図ることが考えられる。しかしながらこれは、その時点の児童数の多寡に対応したに過ぎず、のちに、A小学校区でまちの若返りが起こって児童数が増加し、B小学校区が高齢化して児童数が減少したときには、再び校区調整を行わなくてはならない。

各校区のある時点の児童数に囚われていると、今後何度も校区調整を繰り返すことは避けられず、そこに通う児童だけでなく、地域住民にとっても大きな負担となるため、各校区の児童数そのものを校区調整の指標にすることは適切ではない。児童数（人口）は長期スパンで増減を繰り返すものであることを念頭に、その振れ幅を吸収できる安定的な校区設定とすべきであることから、「人口増減に左右されない」指標を持つべきである。

次に、人口増減に左右されない適切な指標について、教育環境の観点から検討する。なお、ここで言う教育環境とは、物理的環境を指す。

教育環境の観点から考えると、着目すべきは、その学校がもつ「児童の受け入れ能力」、すなわち「その学校にどれくらい物理的なキャパシティがあるのか」ということである。受け入れ能力の小さい学校にキャパシティを超えた児童数を詰め込めば教育環境の悪化が避けられないことから、学校の物理的キャパシティは重要な要素である。

学校における物理的なキャパシティとして考えられるのは、「校舎の延床面積」

あるいは「学校の敷地面積」であり、これらの値が大きければ、児童をたくさん受け入れられるキャパシティがあることになる。この2つのうち「校舎の延床面積」は、教室数が不足した場合には増築を行うこともあり得ることから、実際には変動しやすい数字である。一方、「学校の敷地面積」は、箕面市の既存校においてはこれ以上敷地を拡張する余地がなく、今ある敷地以上に増築することはできないという点で、学校の物理的なキャパシティの限界値を表しており、かつ今後変動する可能性がないことから、指標として適切である。

学校のキャパシティに対して児童数が多すぎ過密な状態になれば教育環境が悪化することから、次に考えるべきは、学校の物理的キャパシティに対して、どれだけの児童が入る可能性があるか、である。

前述したように、人口（児童数）そのものは長期スパンで増減し、かつ変動のタイミングが地域によって異なるため、指標としては不適切である。したがって、ある時点での人口（児童数）そのものではなく、その校区のもつ「住民の受け入れ能力」つまり「その校区にどれくらい人が住むことのできるキャパシティがあるのか」を考えるべきである。

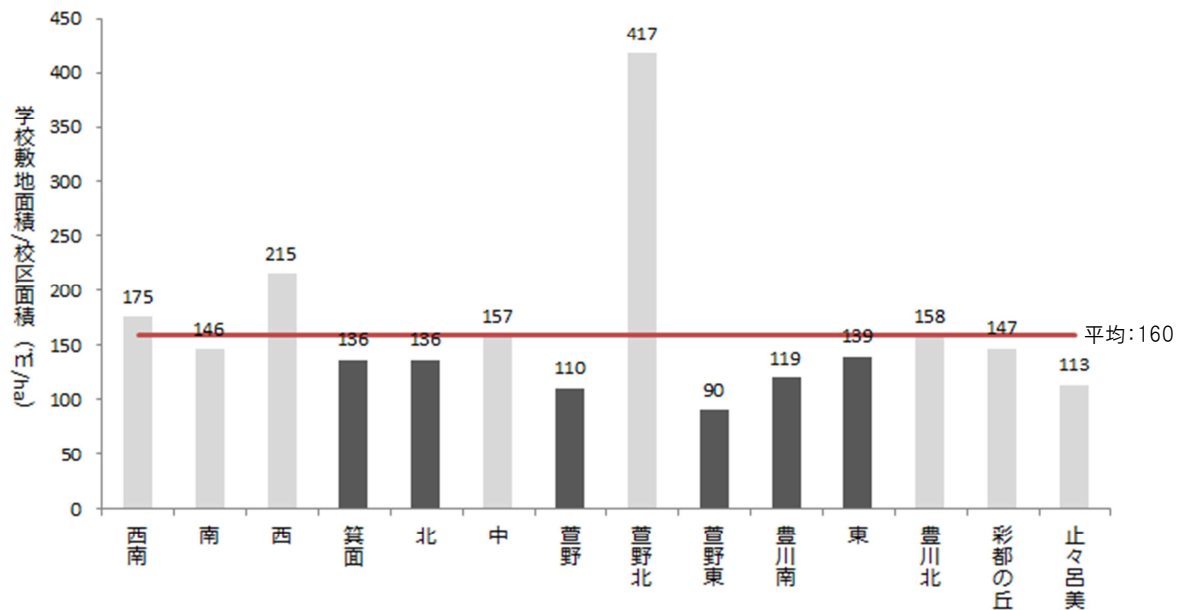
人が住むことのできるキャパシティとは面積であり、各校区のキャパシティは「校区面積」である。校区面積が大きいということは、そこにより多くの人（児童）が住めることを意味し、逆に校区面積が小さいと、そこに住むことのできる人（児童）が少ないことを示している。

学校の物理的キャパシティとそこに住むことのできる人（児童）のバランスが各校区において均等であれば、均等な教育環境が確保されることから、学校の敷地面積（学校の物理的なキャパシティ）と校区面積（人が住むことのできるキャパシティ）とのバランス、すなわち校区面積に対する学校敷地面積の比率を表す「学校敷地面積／校区面積」の値が、教育環境を測る指標となる。

■「学校敷地面積／校区面積」の現状

ここで、箕面市内の全小学校の「学校敷地面積／校区面積」の値を見る。

値が大きいところは、校区面積（人が住むことのできるキャパシティ）に対して十分な学校敷地があることを示しており、値が小さいところは学校敷地に余裕がないことを示している。



周辺地域との校区調整が不可能な止々呂美小学校を除くと、箕面小、北小、萱野小、萱野東小、豊川南小、東小は、いずれも平均値より20ポイント以上下回っており、学校のキャパシティに余裕がないことを示している。これらの校区において、現に箕面小校区や南小校区がそうであるように、まちの若返りや人口流入による児童数の増加が起こった場合、さらに学校敷地に余裕がない状況に陥ってしまうため、「学校敷地面積/校区面積」の値を一定のレベルまで引き上げていく必要がある。

なお、学校敷地面積は固定値であるため、「学校敷地面積/校区面積」の値を引き上げるためには、学校敷地面積に合わせて校区面積を狭める必要がある。減らした分の面積は隣接校区に入れることになり、その隣接校区も値の低い校区である場合はそこも校区面積を狭める必要があるため、さらに次の隣接校区との調整が必要になる。

校区調整にあたっては、実際の地形地物や地域のまとまりなども考慮しながら進めていくこととなるが、常にこの指標の動きに目を配りながら、学校敷地面積（学校の大きさ）に合わせて校区の広さ（児童数）を調整することにより、各校区がより均等に近づくようにすべきである。

〔参考〕 校区面積の補正の必要性について

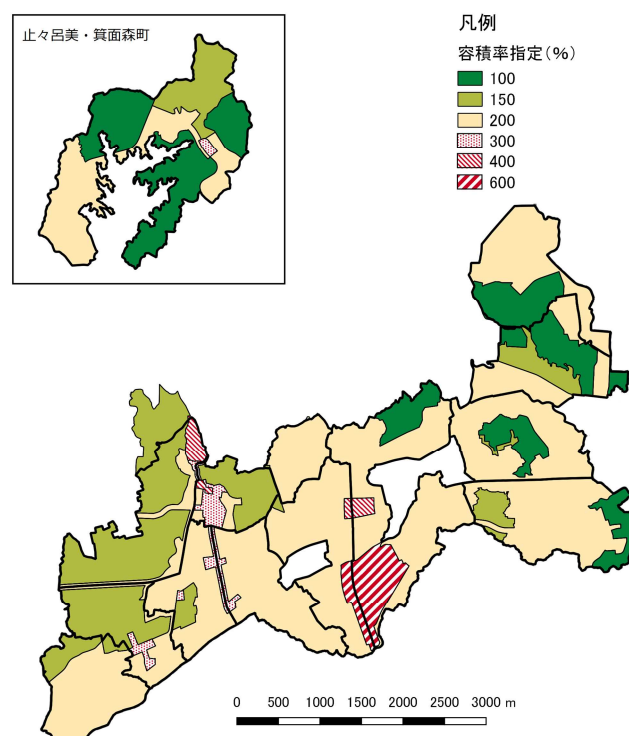
1. 人口密度に基づく全市的な補正について

「校区面積」は「人が住むことのできるキャパシティ」を表すと述べたが、低層住宅しか建てられない地区と中高層住宅が建てられる地区では、同じ面積でもそこに住むことができる人数には差があると考えられる。実際に箕面市内でも地区によって人口密度に違いがあるため、その違いに応じて、指標として使用する「校区面積」を補正すべきかどうか検証する。

例えば人口密度が100のエリアAと200のエリアBがあり、その面積がそれぞれ100㎡だった場合、Bのエリアの面積を $100\text{㎡} \times 2 = 200\text{㎡}$ と補正し、その補正前後で「学校敷地面積／校区面積」の校区間バランスが変化するかどうか分析した。

(1) 補正するエリアの単位

人口密度を左右する要素として「容積率」がある。容積率とは、敷地面積に対する建築延べ面積（延べ床）の割合のことで、都市計画で用途地域毎に定められている。例えば50坪の土地で容積率が200%の地域の場合、最大100坪（50坪×200%）の延べ床面積の建物（例えば1階40坪、2階30坪、3階30坪のようなもの）を建てることができる。容積率が高くなればそれだけ広い延べ床を確保できるので、そこに住むことのできる人が増え、人口密度が高くなる。このことから、市域を容積率別にエリア分けし（下図参照）、そのエリアごとに面積を補正していくこととする。



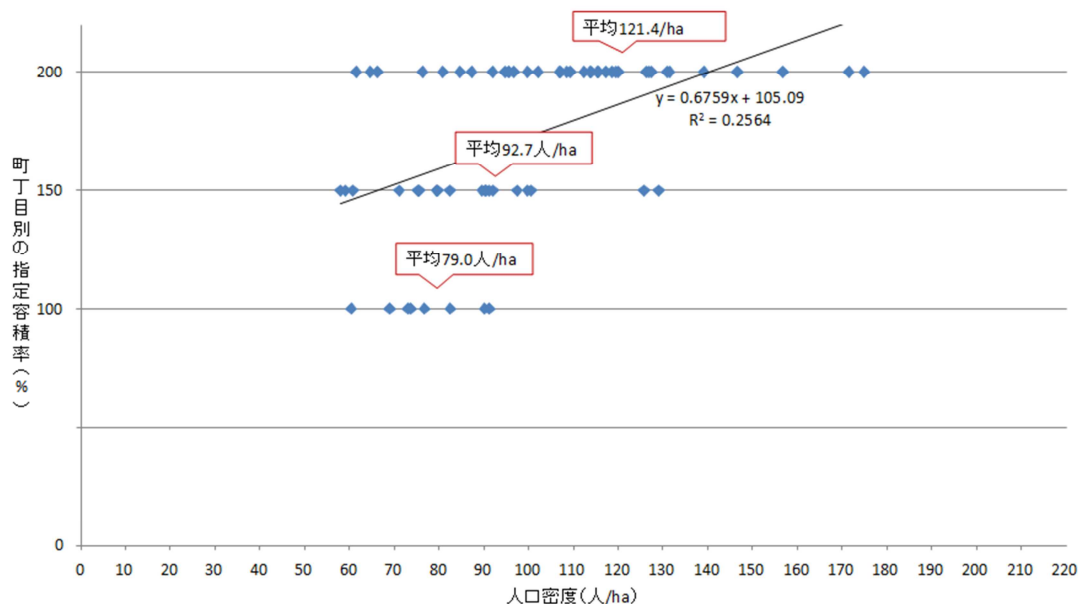
(2) 補正の考え方

人口密度をもとに補正係数を設定し、実面積に補正係数を掛けることで仮想の面積（以下「補正後面積」という。）を算出することとする。以下に、容積率別の補正係数をまとめた。

○容積率 100～200 の地域について

容積率 100～200 に指定されている地域は、低層～中高層住宅や病院、学校、小規模な店舗等を建てることができ、主に良好な住居環境を守るための地域である。

これらの地域における、町丁目別の人口密度を、容積率別にプロットすると次図のとおりとなる。



※平成 29 年 4 月 1 日現在

※山林や農地、大規模な公共施設を含まず、人口定着が概ね完成している市街地をピックアップした。

※ひとつの町丁目に複数の容積率が指定されている場合、より指定面積の大きい方の容積率を採用した。以下の分析においても同様。

容積率 100 の地域の補正係数を 1 として、それぞれの人口密度の平均値をもとに容積率 150、200 の地域の補正係数を求めると、以下のようになる。

- ・容積率 150 の地域の補正係数は 1.2 (92.7/79.0≒1.17)
- ・容積率 200 の地域の補正係数は 1.5 (121.4/79.0≒1.54)

※用途地域でいう「近隣商業地域」においても容積率 200 指定の地域が小野原東六丁目の一部に存在するが、市全体で見るとごくわずかな面積であるため、便宜上住居系の容積率 200 の地域と同様に扱う。

○容積率 300 の地域（近隣商業地域・商業地域）について

容積率 300 に指定されている地域は、近隣の住民が日用品の買い物をする店舗や、飲食店等を建てることができ、主に商業の利便の増進を図る地域で、箕面市においては、主に阪急箕面駅や桜井駅前が該当する。これらの地域の人口密度は以下のとおりである。

箕面五丁目	82.9 人/ha
箕面六丁目	112.1 人/ha
桜井二丁目	126.8 人/ha
平均	107.3 人/ha

よって、容積率 300 の地域の補正係数は 1.4 ($107.3/79.0 \div 1.36$) とする。

○容積率 400 の地域（商業地域）について

容積率 400 に指定されている地域は、映画館、飲食店、百貨店、事務所等、主に商業の利便の増進を図る地域であり、箕面市においては、かやの中央エリアが該当する。

容積率 400 の地域が広く存在する西宿一丁目の人口密度は 22.7 人/ha であるため、容積率 400 の地域の補正係数は 0.3 ($22.7/79.0 \div 0.29$) とする。

○容積率 600 の地域（商業地域（特定業務地区））について

容積率 600 に指定されている地域は、特別業務地区であり、箕面市では、卸売業に供する店舗、事務所等が集中立地している、主に船場東地区が該当する。

北大阪急行延伸に伴い、市では船場地域において定住人口が $1,669$ 人増加すると推計している（平成 28 年 2 月「北大阪急行線延伸事業ディスクロージャー2016」）。この人口増加が、今後新たな住宅供給が見込まれる船場東地区に集中したと仮定すると、将来的な船場東地区の人口密度は 54.0 人/ha となる。

人口(推計値)		人口密度(推計値)
2,864 人		54.0 人/ha
現在人口(H29.04)	1,195 人	
増加分	1,669 人	

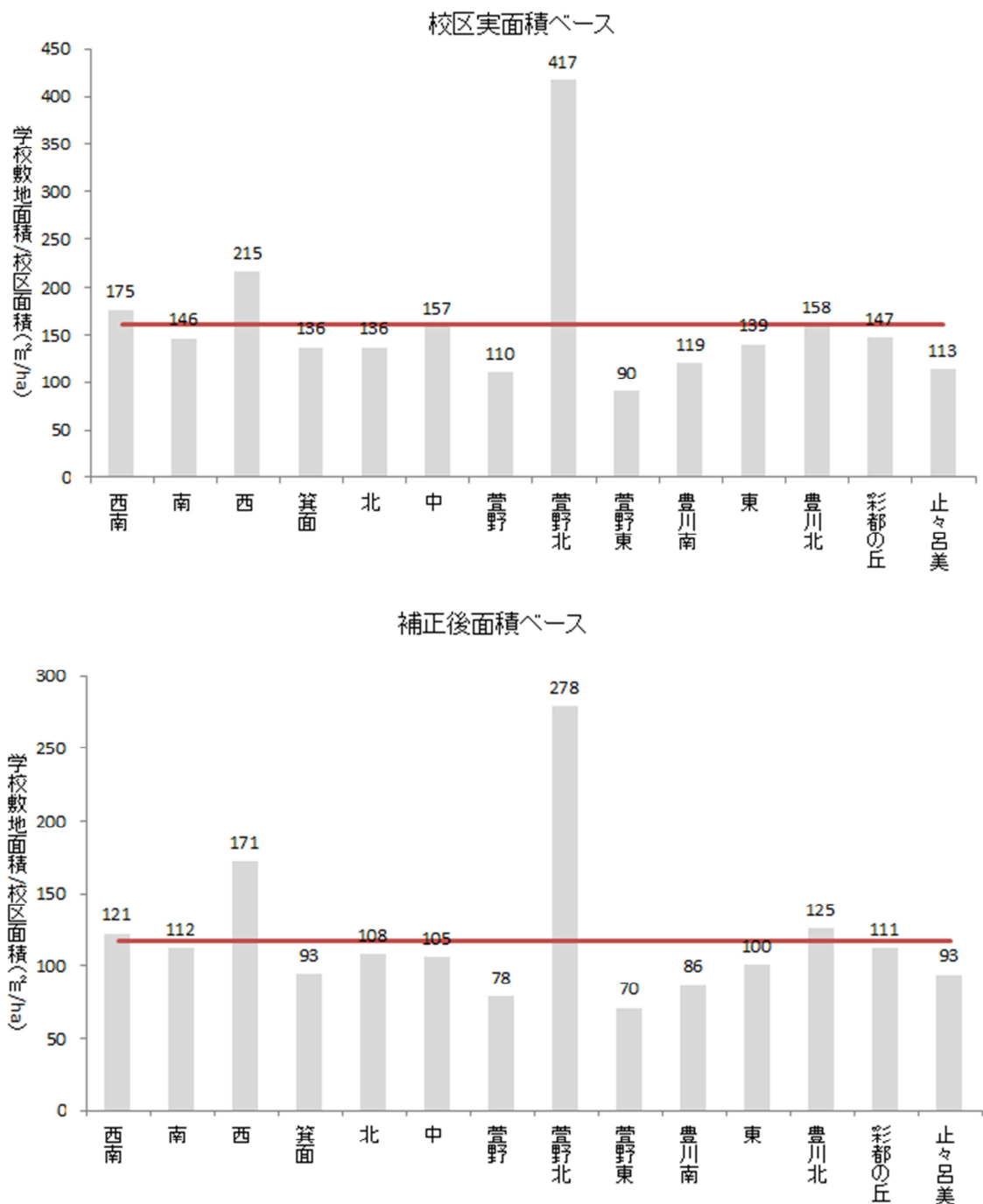
よって容積率 600 の地域の補正係数は 0.7 ($54.0/79.0 \div 0.68$) とする。

以上をまとめると、容積率ごとの補正係数は下表のとおりとなる。

容積率	100	150	200	300	400	600
補正係数	1	1.2	1.5	1.4	0.3	0.7

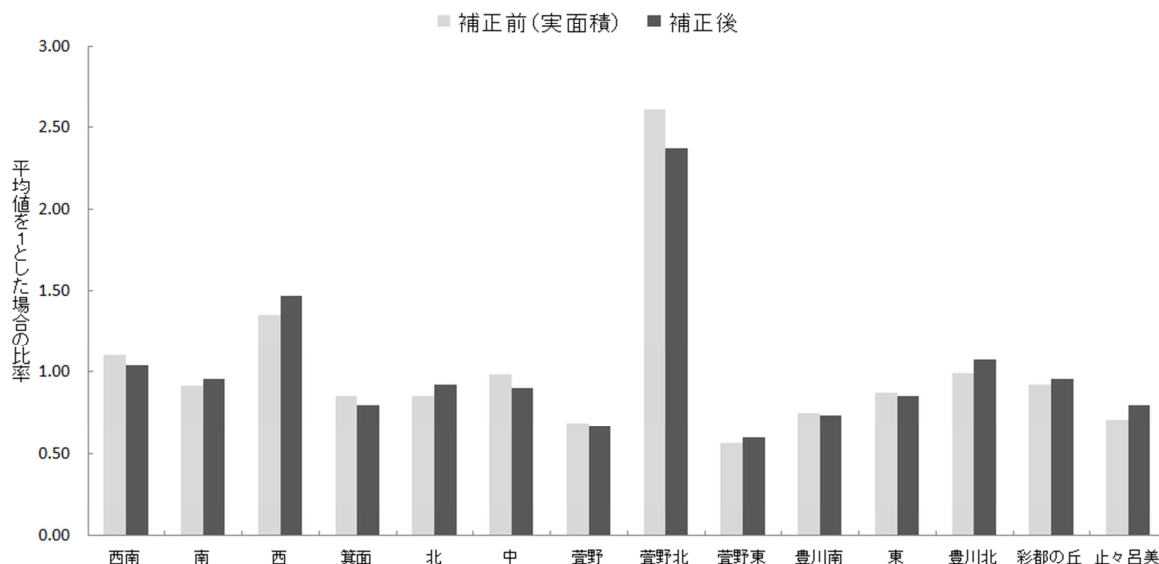
(3) 補正結果

校区面積を補正する前（実面積）と補正した後とで、それぞれ「学校敷地面積／校区面積」の値を算出すると次のとおりとなる。



補正前後で校区間のバランスが変わったかどうかを検証するため、それぞれの平均値を基準値（「1」）とした場合の比率を求め、比較すると次のとおりとなる。

補正前後の「学校敷地面積/校区面積」の値の校区間バランス



	西南	南	西	箕面	北	中	萱野	萱野北	萱野東	豊川南	東	豊川北	彩都の丘	止々呂美
補正前(①)	1.09	0.91	1.34	0.85	0.85	0.98	0.69	2.60	0.56	0.75	0.87	0.99	0.92	0.71
補正後(②)	1.04	0.95	1.46	0.80	0.92	0.90	0.67	2.37	0.60	0.73	0.85	1.07	0.95	0.79
乖離(②-①)	▲0.06	0.04	0.12	▲0.05	0.07	▲0.09	▲0.02	▲0.23	0.04	▲0.01	▲0.02	0.08	0.03	0.09

平均値に対する比率を補正前後で比較すると、乖離はごくわずかであり、補正前後で比率がほぼ一致していることがわかる。

これは、箕面市には一定の商業地域は存在するものの、全体としては大阪のベッドタウンとして良好な住環境を維持してきた歴史的背景があるため、校区という広い単位で捉えたときには人口密度の差はごく小さいものとなり、人口密度に応じて全市的に面積を補正したとしても、校区間のバランスを変化させるほどの影響は出ないものと考えられる。

2. 特殊な地域性を考慮した補正について

1. では、複数の町丁目の人口密度の平均値を用いて補正をしたもので、鉄道駅前や中高層マンションが集中するような特殊な地域性を考慮できていない。そこで、これらのエリアのみ特別な補正を加える必要性があるか検討した。

(1) 特殊な地域性をもつエリアの抽出

○鉄道駅周辺エリア

周辺に住宅や商業施設が発達している阪急箕面駅・桜井駅を中心に半径500m圏内に含まれる町丁目を該当エリアとした。

○中高層マンション集中エリア

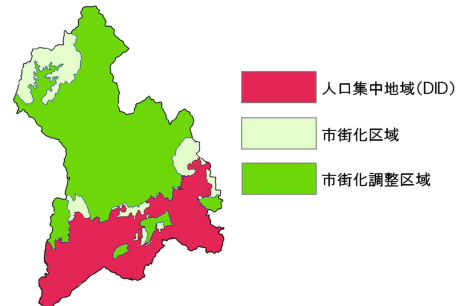
全町丁目の中で突出して人口密度の高い如意谷五丁目をはじめ、中高層マンションが集中する如意谷三～五丁目を該当エリアとした。

(2) 該当エリアの人口密度と補正係数

(1) のエリアの人口密度は下表のとおりである。これらのエリアについて、箕面市の人口集中地区※(DID という。市南部の市街地ほぼ全域を指す。)の人口密度 83.8 人/ha (平成 27 年国勢調査) を基準値 1 として、それぞれの人口密度に応じて補正係数を設定すると下表のとおりとなる。

※人口集中地区 (DID) とは

国勢調査で設定されている集計単位の一つ。市区町村の区域のうちで人口密度の特に高い地域を表わす。箕面市では、平成 27 年国勢調査において 15.0k m² が指定されており、市南部の市街地ほぼ全域がそれに該当する。

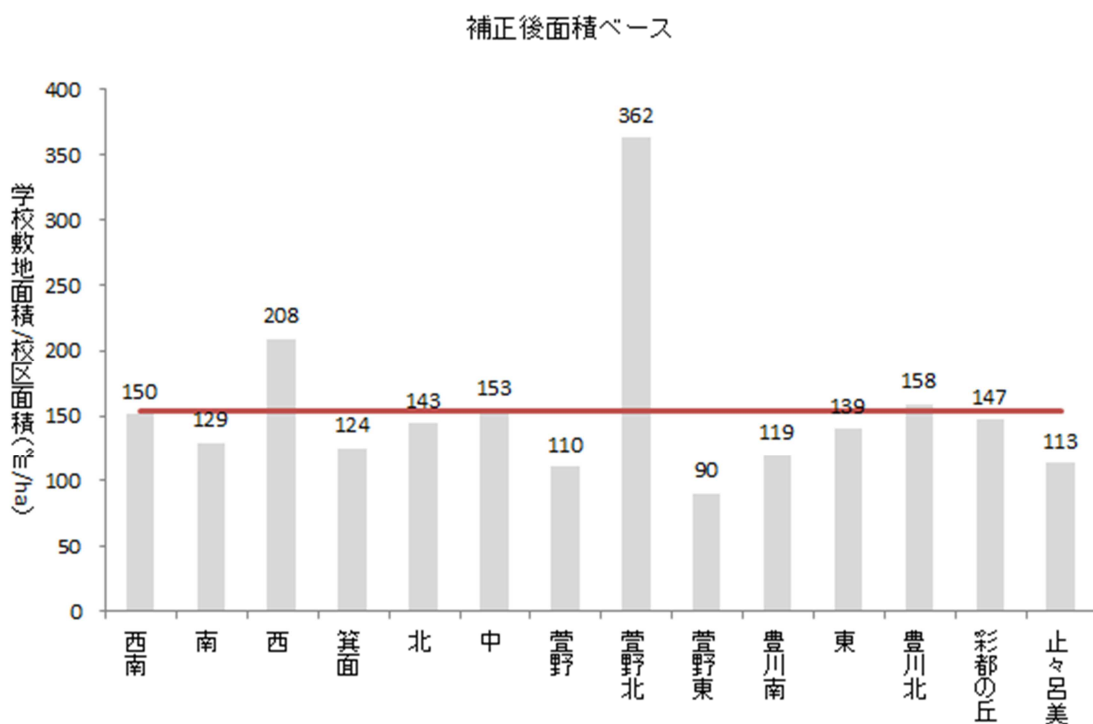
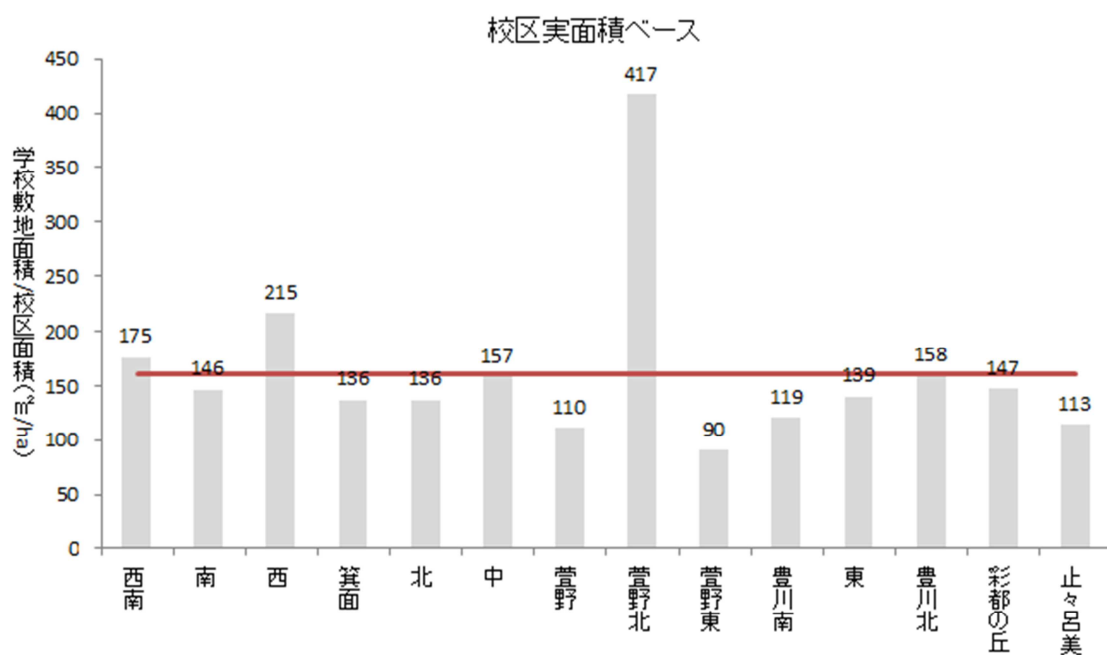


	町丁目	人口密度 (人/ha)	補正 係数		町丁目	人口密度 (人/ha)	補正 係数	
箕面駅 周辺エリア	箕面1丁目	59.9	0.71	桜井駅 周辺エリア	桜井1丁目	90.4	1.08	
	箕面2丁目	24.1	0.29		桜井2丁目	126.8	1.51	
	箕面3丁目	92.1	1.10		桜井3丁目	112.4	1.34	
	箕面5丁目	82.9	0.99		桜井5丁目	120.0	1.43	
	箕面6丁目	112.1	1.34		桜井6丁目	60.7	0.72	
	箕面7丁目	79.5	0.95		半町1丁目	89.6	1.07	
	箕面8丁目	90.4	1.08		半町2丁目	95.6	1.14	
	稲1丁目	107.3	1.28		半町3丁目	175.0	2.09	
	稲3丁目	45.5	0.54		半町4丁目	114.1	1.36	
	西小路1丁目	139.1	1.66		桜ヶ丘2丁目	75.3	0.90	
	西小路2丁目	130.9	1.56		桜ヶ丘3丁目	82.5	0.98	
	西小路3丁目	99.2	1.18					

	町丁目	人口密度(人/ha)	補正係数
中高層マンション 集中エリア	如意谷3丁目	161.5	1.93
	如意谷4丁目	76.4	0.91
	如意谷5丁目	3920.4	46.78

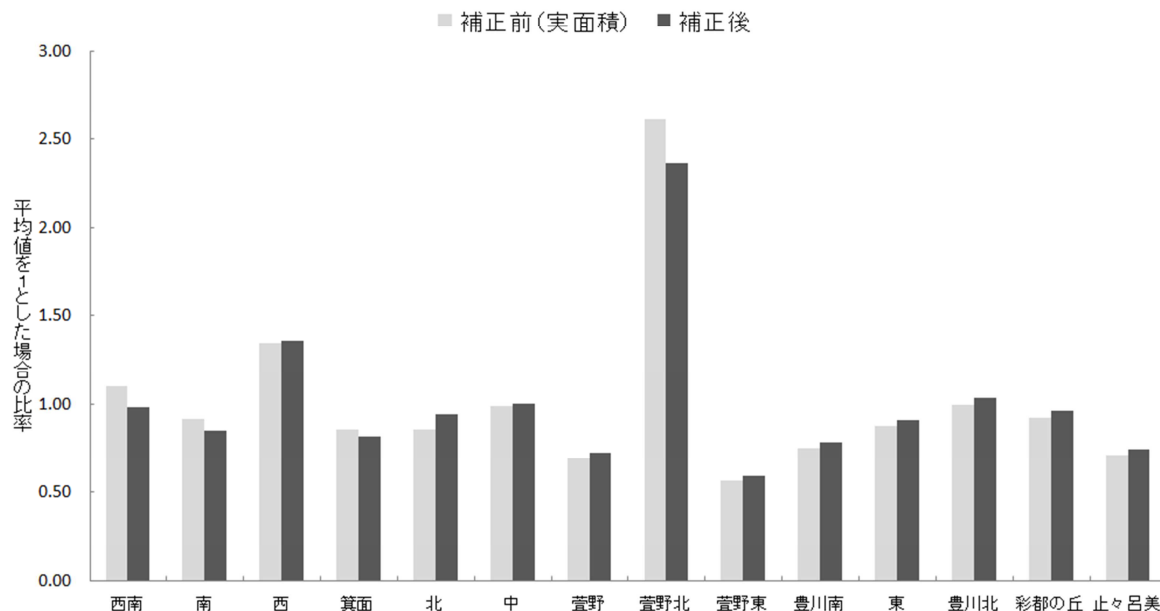
(3) 補正結果

これらのエリアの実面積にそれぞれ補正係数を掛けることにより補正後面積を算出し、「学校敷地面積/校区面積」の値と校区間のバランスを見る。



1.と同様に、補正前・補正後それぞれの平均値を基準値（「1」）とした場合の比率を求め、補正前後で校区間のバランスが変わったかどうかを検証すると次のとおりとなる。

補正前後の「学校敷地面積/校区面積」の値の校区間バランス



	西南	南	西	箕面	北	中	萱野	萱野北	萱野東	豊川南	東	豊川北	彩都の丘	止々呂美
補正前(①)	1.09	0.91	1.34	0.85	0.85	0.98	0.69	2.60	0.56	0.75	0.87	0.99	0.92	0.71
補正後(②)	0.98	0.84	1.36	0.81	0.94	1.00	0.72	2.36	0.59	0.78	0.91	1.03	0.96	0.74
乖離(②-①)	▲ 0.12	▲ 0.07	0.01	▲ 0.04	0.09	0.01	0.03	▲ 0.24	0.02	0.03	0.04	0.04	0.04	0.03

平均値に対する比率を比較すると、補正前後でその比率がほぼ一致していることがわかる。鉄道駅周辺や中高層マンションが集中するような特殊な地域性を考慮したとしても、1.と同様に、校区という広い単位で捉えたときにはそれらの影響はほとんど生じない。

3. 結論

1. 及び 2. の結果から、校区面積を補正したとしても、校区間のバランスに変化を生じさせるほどの影響がないことが確認できたため、人口密度やエリアの特殊性によって校区面積を補正する必要はない。

以上